

# 第5次厚真町総合計画

令和8年6月



あつまるだけで、いいまち。

北海道  
厚真町

HOKKAIDO ATSUMA TOWN



## 第5次厚真町総合計画目次

第1編 総論	2
第1章 はじめに	3
第2章 これまでの歴史とまちづくりの変遷	4
第3章 計画の位置づけ・期間・対象	8
第4章 計画のスタイル	9
第5章 策定の考え方と方法	10
第6章 評価手法	12
第7章 まちの課題認識	14
第2編 基本構想	20
第1章 基本構想とは	21
第2章 10年後の将来像	21
第3章 基本目標と施策体系	22
第4章 「あつまるだけで、いいまち。」～あつまチャレンジ～	26
第3編 基本計画	30
第1章 基本計画の概要	31
第2章 基本計画の見方   施策・ロジックモデルの読み解き方	32
第3章 基本計画（ロジックモデル集）	34
第4章 18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧	70
第4編 付録	83
第1章 厚真町の人口の見通し	84
第2章 土地利用ビジョン	87
第3章 総合計画策定のあゆみ	89
第4章 総合計画策定メンバー	91

# 第1編 総論

# 第1編 総論

## 第1章 はじめに

北海道の大地に抱かれた厚真町。広がる田園風景と豊かな自然の中で、私たちは代々受け継がれてきた文化や産業を大切にしながら、未来へと歩みを進めてきました。

平成30年(2018年)の北海道胆振東部地震は、町に大きな爪痕を残しましたが、復興への懸命な努力の中で、地域の絆の大切さと災害に強いまちづくりの必要性を深く認識しました。第4次総合計画に基づき、人口減少という課題に真正面から取り組んだ結果、震災前の平成28年(2016年)から平成30年(2018年)、そして令和4年(2022年)から令和5年(2023年)にかけて「社会増」を達成<sup>※1</sup>し、急速な人口減少の緩和に一定の成果を挙げました。また、合計特殊出生率も平成30年(2018年)から令和4年(2022年)の5年間平均で1.39<sup>※2</sup>となり、全国・北海道平均を上回る水準となりました。

しかし、人口は令和32年(2050年)に2,931人まで減少するとの予測もあります<sup>※3</sup>。人口減少が町の活力喪失に直結しないよう、持続可能なまちのあり方を考える時代が到来しています。一方で、DXやGXの推進、新庁舎をはじめとする文化交流施設や上厚真ゼロカーボンビレッジの整備など、新たな可能性も広がっています。世代を超えた多様な交流が生まれ、まちの賑わいが再び広がる未来が、すぐそこまで来ています。

本計画は、従来の計画とは異なるアプローチを採用しています。アンケートやヒアリング、ワークショップを通じて、町民の皆さんの声を集め、今のまちが抱えている課題を丁寧に整理しました。そのうえで、「どのような取組を行い、どのような成果につなげていくのか」をわかりやすく整理した「ロジックモデル」を示し、成果を確認できる具体的な目安(指標)を設定しています。こうした積み重ねをもとに、将来のまちの目標や基本的な方向性をまとめた、実行につながる計画としています。

日本全体で人口減少が進む中、私たちは、幾多の試練を乗り越え、この町を拓いてきた先人たちの想いを受け継ぎながら、DX、GX、SDGsといった新しい時代の流れを取り入れていきます。目指すのは、ただ人口を増やすことではありません。厚真町のポテンシャルを引き出し、町民が幸せを実感できる魅力あふれるまちをつくること。そうすれば、自然と人が集まり、住み続けたい、帰りたくなるまちが生まれます。このまちづくりを、町民一丸となって推進します。

※1：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数より

※2：厚労省、人口動態、保健所・市町村別統計より

※3：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2023年推計)」より

## 第2章 これまでの歴史とまちづくりの変遷

### 一万年以上続く、人々の営みとダイナミックな交易の歴史

厚真町の歴史は、約1万4,500年前の旧石器時代にまでさかのぼります。厚真川の流域では、長い年月にわたって人々の暮らしが営まれてきました。先住民族アイヌの人々のルーツである縄文人は、北海道内陸部の富良野や十勝地方のほか、小樽方面や青森、新潟との広域的な交流ネットワークを育てていたことが、厚真町の近年の発掘調査からわかっています。

さらに10世紀以降の厚真のアイヌ民族は、ロシア極東地域や朝鮮半島、博多や京都、常滑、鎌倉、岩手県平泉・前沢などの東北地方やサハリンとのダイナミックな交易を展開していきます。

このように厚真の先人たちは、数千年前から厚真川が育んだ豊かな自然環境や“地の利”に恵まれた地域に暮らし、豊かな生活文化を育んでいました。

### 林業の町 厚真の誕生

1870年・明治3年に新潟県人青木与八が浜厚真に定住し、明治20年・今から約140年前ころから富山県や石川県、岩手県など本州からの和人の移住が本格化します。

厚真川流域に広がっていた原野や森林は、人々の手によって少しずつ水田や畑へと開かれてきました。用水路の整備や土づくりの工夫などに、地域の人々が力を合わせて取り組み、その積み重ねによって、農業の町としての厚真町の基盤が築かれてきました。

夕張山地南部に位置する厚真の原生林を資源として、製材所や炭焼き窯が町内各所につくられ、明治30年・1897年に苫小牧村から厚真村が独立し、行政単位としての厚真が誕生します。

その後も急速な発展を遂げ、これらの生産・流通・地域経済の拠点として、現在の厚真町市街地が形成されてきました。

## 昭和の躍進的発展「苫東開発」

現在の厚真町の発展は、厚真町・苫小牧市・安平町にまたがる「苫小牧東部工業地帯」の開発を大きなきっかけとして進んできました。1980年（昭和55年）に北海道電力苫東厚真火力発電所1号機の運転が始まり、現在では北海道最大規模の火力発電所となっています。さらに、国内最大級の石油備蓄基地の整備や、日本海航路の定期フェリーの就航などが進み、厚真町は北海道のエネルギー供給や全国につながる物流の拠点として、重要な役割を担っています。

また、北海道の空の玄関口である新千歳空港から1時間以内という立地にも恵まれており、産業・物流・交流の面で大きな優位性を持っています。

こうした産業基盤と、田園や海、森に囲まれた豊かな自然環境、そしてそこで営まれる人々の暮らしが互いに支え合いながら、厚真町は発展を重ねてきました。エネルギーや物流を担う力強い産業と、農林水産業をはじめとする地域の生業、そして日々の生活環境が調和することによって、さらなる発展につながる高いポテンシャルを備えた町と言えます。

## まちづくりの変遷

### 第1期

厚真の新しいまちづくり計画  
昭和48年（1973年）～

“すぐれた文化生活の確保と豊かな生産  
を目指して”

苫小牧東部大規模工業基地開発計画などの発表を契機に、町初のまちづくり計画が策定されました。

隣人愛に富んだ静かな暮らしの伝統を守り、高水準の文化生活と環境保全を実現し、生活と生産の場を適正に配置した機能的な地域社会の形成を図りました。

公害のない生産性の高い産業振興により、豊かな生活と生産の両立を目指しました。

### 第2期

厚真町新総合計画  
平成8年（1996年）～平成17年（2005年）

“交流さそう、緑とゆとりにあふれた  
「大いなる田園」の町”

「交流をさそう、緑とゆとりにあふれた大いなる田園の町」を基本テーマに、第2次となる厚真町新総合計画が策定されました。

水害のないまちづくり、基幹産業である農業をはじめとする諸産業の振興、生活環境の整備、教育文化の振興、福祉の充実を図るとともに、苫小牧東部開発新計画との整合性を保ちながら、弾力的かつ積極的なまちづくりを進めました。

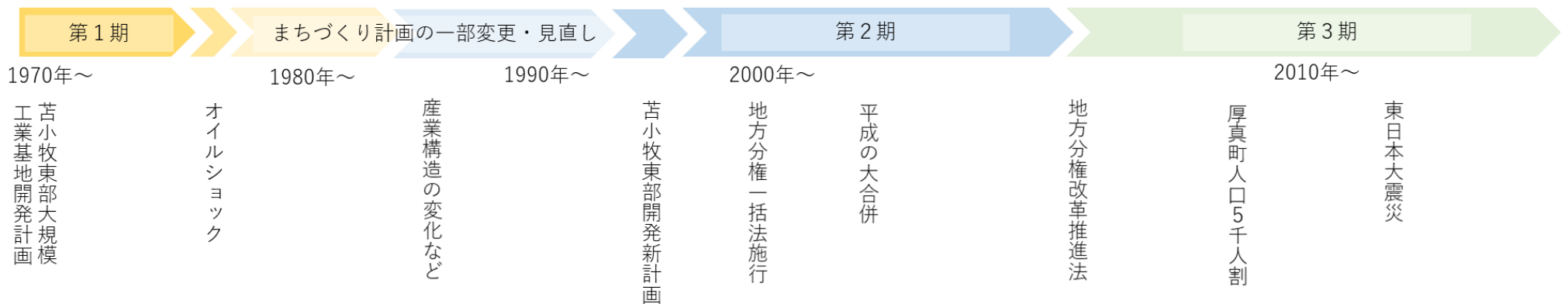
### 第3期

第3次厚真町総合計画  
平成18年（2006年）～平成27年（2015年）

“いのち満ちる農（みのり）里あつま、  
大いなる田園の町”

全町民の英知と力を結集し、協働の仕組みづくりを進め、活力にあふれ自立する“ふるさとあつま”を創造するというコンセプトのもと、自律と協働のまちづくりを推進する計画が策定されました。

従来より積極的・戦略的にまちづくりを進め、町の活性化を図るとともに、長期的視点に立って優先度が高く町民生活の安定向上に有効な施策・事業を展開しました。



## 第4期

第4次厚真町総合計画  
平成28年（2016年）～令和7年（2025年）

“あつまる、つながる、まとまる、  
大いなる田園の町、あつま”

少子高齢化が進行し、産業全体の後継者不足・人材不足など地域経済の発展や活力ある地域社会の形成などに課題が生じてるなか、厚真町がもつ限りない可能性を信じ、人を育て・人を残し、先達から受け継いだ「豊かな森と海、田園の輝き」を次世代に引き継ぐため、山積する課題に積極果敢に新しいまちづくりに挑戦してきました。

## 第4.5期

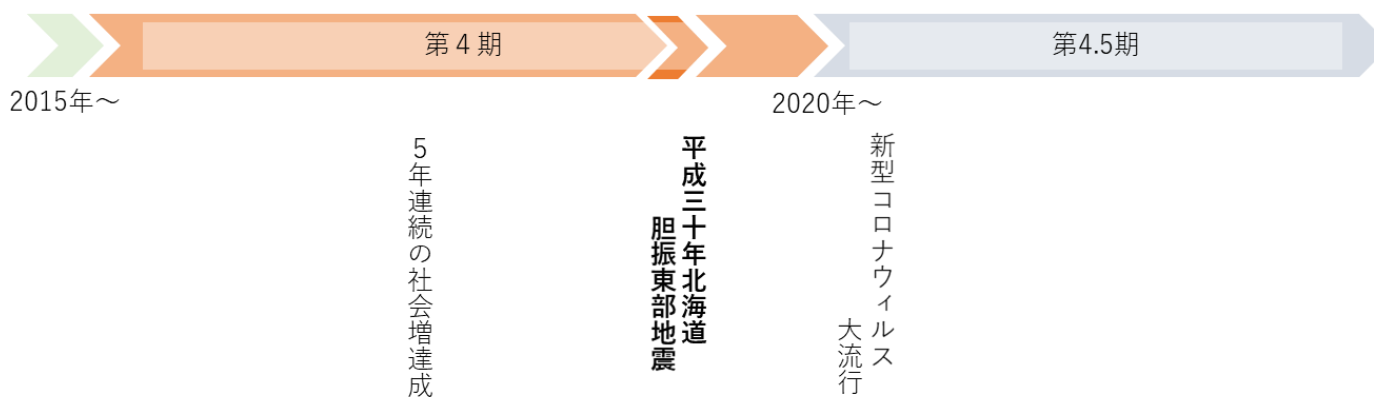
第4次厚真町総合計画 改訂版  
平成28年（2016年）～令和7年（2025年）

“あつまる、つながる、まとまる、  
大いなる田園の町、あつま”

第4次の総合計画の期間中、平成30年北海道胆振東部地震により未曾有の被害を受けました。このため、復興計画や人口減少問題に取り組むための総合戦略を盛り込んだ、第4次厚真町総合計画の改訂作業をおこないました。改訂版では、震災からの復旧・復興、地方創生、防災・減災の取り組みを一体的に推進し、しなやかで持続的発展が可能なまちづくりを目指してきました。

## 第5期

次の新たな10年へ



## 第3章 計画の位置づけ・期間・対象

### 3-1 計画の位置づけ

本計画は、町が策定する計画のうち、最も基本となる計画であって、行政や町民、関係人口など、厚真町に関わる様々な主体が共創してまちづくりを進めるための基本的な方向性を示す羅針盤とします。

特定分野における町の政策における基本的な方向等を明らかにする計画（以下、「分野別計画」という。）は、総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って策定し、推進することとします。

### 3-2 計画期間

令和8年度～令和17年度（2026～2035年度）の10年間

### 3-3 対象区域

町全域

### 3-4 対象主体

地域住民

広域連携（胆振管内・北海道）

民間企業

連携大学

NPO等

本計画は、これらの多様な主体との協働を前提とします。

## 第4章 計画のスタイル

### 4-1 計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構造で構成します。

### 4-2 基本構想（10年間）

計画的かつ戦略的にまちづくりを行うための基本的指針で、10年間の長期的な構想を示します。

期間：令和8年度～令和17年度（2026～2035年度）

### 4-3 基本計画（前期・後期各5年間）

基本構想に基づき、達成すべき目標や、その道筋を示した中期的な計画です。前期・後期のそれぞれ5年間で構成します。

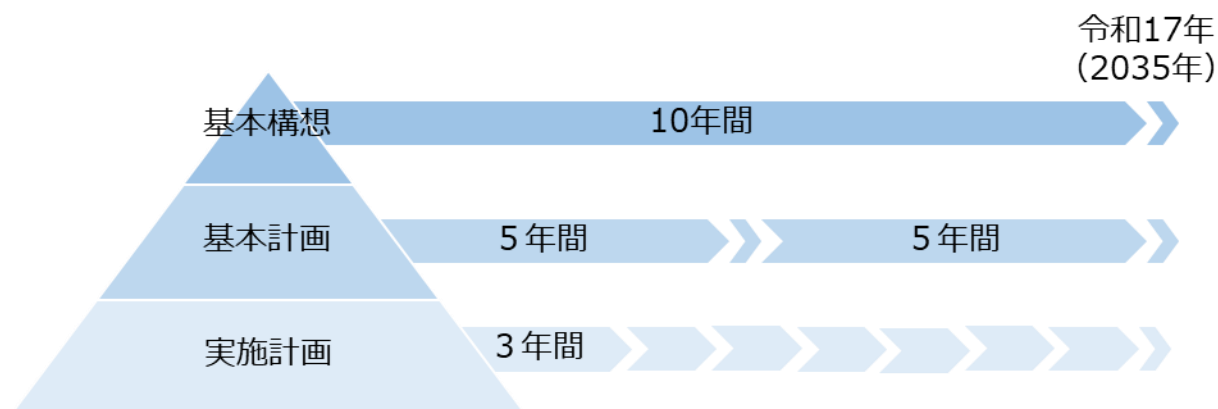
前期：令和8年度～令和12年度（2026～2030年度）

後期：令和13年度～令和17年度（2031～2035年度）

### 4-4 実施計画（3年間）

基本計画で定めた数値目標や成果指標等を達成するための具体的な事業や実施期間を定めた、3年間の短期計画です。

毎年度ローリング方式により見直しを行います。



## 第5章 策定の考え方と方法

本計画では、現状を正しく把握し、何から取り組むべきかを明確にするため、以下3つの段階を踏んで計画づくりを進め、実行につながる計画としてまとめました。

1. 職員ワークショップにて、まちが抱える課題を整理、課題構造マップにまとめて見える化
2. 町民ワークショップ「あつま課題発掘会議」や住民アンケートによる地域幸福度調査を通じて、町民の暮らしや満足度、感じている課題を把握
3. 取組から成果までのつながりを整理する「ロジックモデル」を構築

### 5-1 課題構造の見える化

第一段階では、職員ワークショップを通じて、まちが抱える課題を19の分野に整理し、課題同士のつながりを可視化した**課題構造マップ**を作成しました

#### → 課題構造マップとは？

まちの課題同士がどのように影響し合っているかを、矢印でつないで示した図。

例えば、「地域交通の不便」という課題が「外出機会の減少」につながり、さらに「交流の減少」や「買い物の困難」へと波及していきます。このように、一つの課題が別の課題を引き起こす連鎖が見える化することで、どこに力を入れれば複数の課題を同時に改善できるかが分かります。この「効きやすい場所」をレバレッジポイント(効きどころ)と呼び、レバレッジポイントに優先的に取り組むことで、限られた資源を効果的に使い、まち全体に良い変化を広げることができます。

### 5-2 「あつま課題発掘会議」、地域幸福度調査

第二段階では、「あつま課題発掘会議」と称した町民ワークショップを3回行い、幅広い世代から当事者の声を聴くことで、第一段階で見える化した課題をより深く理解する機会を作りました。

また、デジタル庁の**地域幸福度(Well-Being)指標**を活用し、住民の主観的な幸福感と客観的な生活環境データを組み合わせた住民アンケートによる**地域幸福度調査**を実施しました。(有効回答 404 件)

### → 地域幸福度(Well-Being)とは？

地域幸福度(Well-Being)とは、住民一人ひとりが「心身ともに健康で、自分らしく生きられている」と感じられる状態を指します。単に経済的な豊かさだけでなく、健康、教育、つながり、環境、安心・安全など、暮らしの様々な側面を総合的にとらえる考え方です。デジタル庁では、全国の自治体が共通の指標で地域幸福度を測れるよう、地域幸福度(Well-Being)指標を整備しています。これにより、住民の実感(主観)と統計データ(客観)の両面から、まちの状態を把握することができます。

### → 地域幸福度調査とは？

地域幸福度調査では、主観データ(町民の実感)と客観データ(統計の実態)の両方を測ります。

**主観データ(アンケート)：**「幸せですか?」「暮らしに満足していますか?」など、町民が感じている満足度や安心感を数値化します。

**客観データ(統計)：**人口、医療施設数、商業施設へのアクセス、雇用状況など、実際の数値を使います。

この二つを重ね合わせることで、「設備は整っているのに満足度が低い」場合は使い勝手やアクセスの改善が必要、「満足度は高いのに利用が少ない」場合は周知不足、といった具体的な対応策が見えてきます。

## 5-3 ロジックモデルの構築

上記のプロセスで把握した課題を踏まえ、本計画では、各施策について**ロジックモデル**という設計図を作成しています。

### → ロジックモデルとは？

ロジックモデルとは、施策ごとに、

**取組(やること)→直接的結果(やった結果うまれるもの・こと)→社会的インパクト(望ましい変化：初期成果・中期成果・長期成果)**  
の順番で並べた設計図です。例えば

- ・ **取組：**研修の開催、施設の整備、情報の周知、相談窓口の設置
- ・ **直接的結果：**開催回数、参加者数、配布数、連携件数など、すぐ数えられるもの
- ・ **社会的インパクト：**取組で直接的に左右することができない、地域や人の変化

このように、行事や補助を「やった」で終わらせず、暮らしの変化(成果)までたどり着く道筋を最初から定めることで、本当に効果のある施策を実施できます。直接的結果については、その実施状況を測る「結果指標」を設定しています。社会的インパクトについては、初期成果(2~4年)、中期成果(5~8年)、長期成果(9~10年)の3段階で整理し、各施策が目指す望ましい変化を明示しています。

## 第6章 評価手法

### 6-1 基本的な考え方

本計画では、よりよい成果につながる行政運営を行うため、ロジックモデルに基づいた評価の仕組みを取り入れます。施策ごとに、「どのような取組を行い、どのような成果につながるのか」という流れを明確にし、計画・実行・点検・改善を繰り返す PDCA サイクルによって、継続的な見直しと改善を進めていきます。

各施策の進捗状況は、取組の実施状況を示す「直接的結果」と、ロジックモデルに示した「社会的インパクト」の実現状況を確認しながら把握します。直接的結果については結果指標により測定し、社会的インパクトについては、各施策が目指す望ましい変化の実現状況を多角的な視点から確認します。

これにより、限られた資源をより効果的に使いながら、町民一人ひとりの暮らしの質の向上につなげていきます。

### 6-2 評価と改善のサイクル

本計画の評価は、毎年度実施し、必要に応じて施策や事業の見直しを行います。また、中間年（令和 12 年度）には計画全体の進捗状況を総合的に検証し、社会情勢の変化等を踏まえた見直しを行います。

評価結果は町民に分かりやすく公表し、説明責任を果たすとともに、次年度以降の施策の改善につなげていきます。

#### 6-2-1 Plan（計画） | 実施計画の策定と予算編成

- 実施計画の策定
- 予算編成

#### 6-2-2 Do（実行） | 事業の執行

- 事業の実施
- データの収集

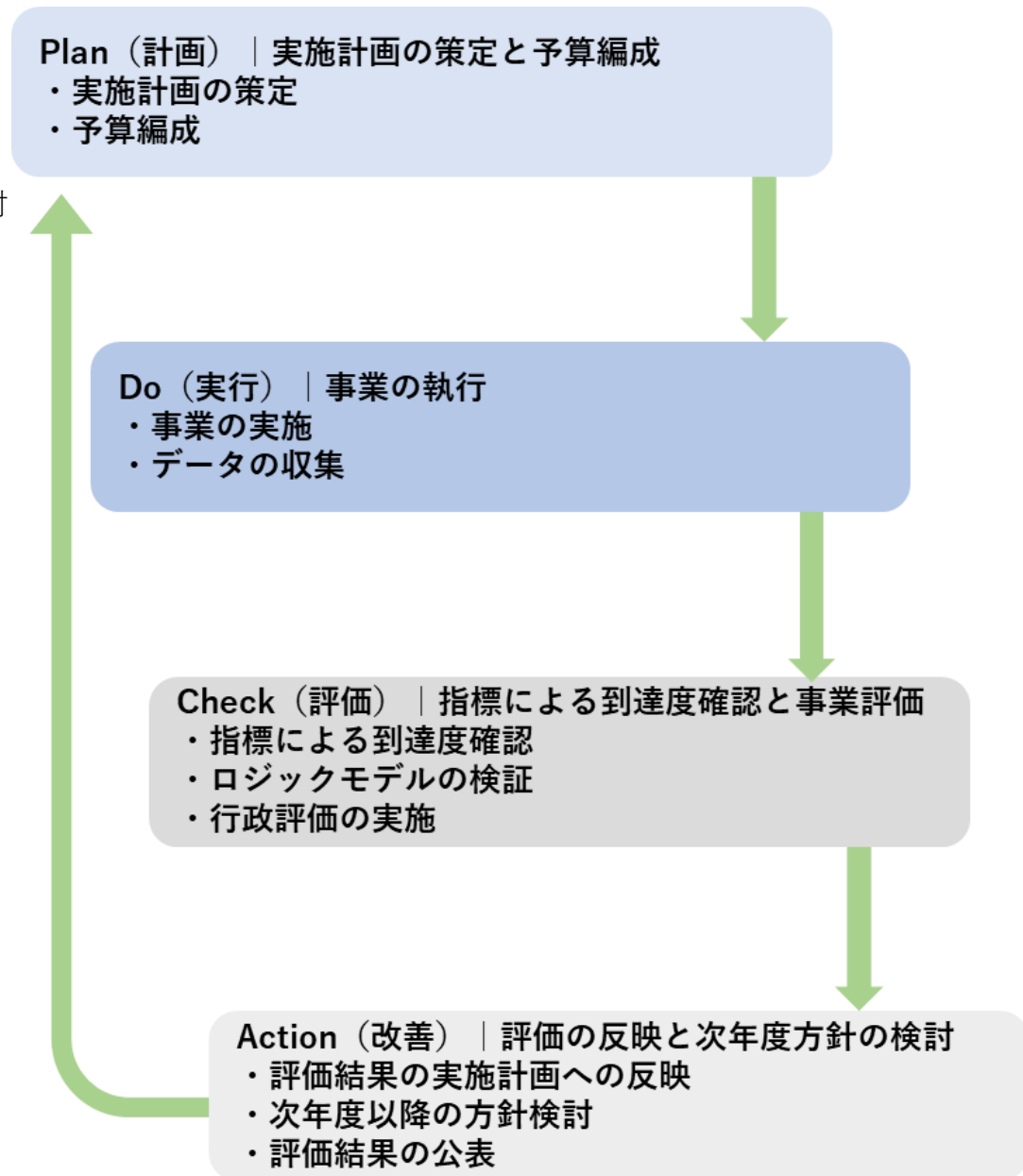
#### 6-2-3 Check（評価） | 指標による到達度確認と事業評価

- 指標による到達度確認

- ロジックモデルの検証
- 行政評価の実施

#### 6-2-4 Action (改善) | 評価の反映と次年度方針の検討

- 評価結果の実施計画への反映
- 次年度以降の方針検討
- 評価結果の公表



## 第7章 まちの課題認識

### 7-1 課題構造の可視化

本計画策定にあたり、職員ワークショップを通じて、まちが抱える課題を19の分野に整理しました。

### 7-2 19の政策分野

1. 子ども・子育て支援の充実
2. 教育・多様な学びの充実
3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興
4. 官民学連携による人材の確保・育成
5. 高齢者福祉・介護の充実
6. 社会福祉・障がい者福祉の充実
7. 保健・医療の充実
8. 農畜産業の振興
9. 林業の振興
10. 水産業の振興
11. 商工業・観光の振興
12. 地域経済の活性化
13. 都市機能の最適化
14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり
15. 住まい方の充実・定住促進
16. 防災・危機管理能力の強化
17. 安心・安全なまちづくり
18. 住民主体のまちづくり
19. 健全な行財政運営への転換

### 7-3 課題構造の可視化によって明らかになった、地域の課題

人口減少や少子高齢化は、今や日本全体の課題です。これに伴う担い手不足や産業・経済の変化が複合的に作用し、さまざまな分野で課題が広がる。この町もまた、こうした構造的な課題を抱えています。

**子育て・教育分野**では、保護者の孤立や移動のしにくさが、子どもたちの学びや体験の機会を限られたものにしてしています。**歴史・文化・スポーツ分野**では、担い手の減少が、多世代交流の機会減少につながっています。**人材育成分野**では、新たな担い手の受け入れ態勢の脆弱さと、新しいことに挑戦することへの心理的なハードルにより、取組が停滞しています。**高齢者・障がい福祉分野**では、介護人材の不足や地域のつながりの弱まりが、孤立を深める要因となっています。**保健・医療分野**では、医療従事者の不足や受診のしにくさが、病気の重症化リスクを高めています。

また、一次産業では、**農畜産業・林業・水産業**のいずれにおいても、厳しい経営環境や後継者不足が大きな課題となっています。**商工業・観光分野**では、町内での消費を促す魅力づくりや情報発信が十分でなく、消費が町外へ流出しています。**地域経済の活性化**においては、公的支援への期待が高まる一方で、民間同士が連携する機会が少なく、自立した経済の循環が生まれにくい状況です。**都市機能**の分野では、インフラの老朽化に加え、財源や人材の不足が維持管理を難しくしています。**循環型社会づくり**では、環境への意識を保つことの難しさやコストを重視する考え方が、新しい技術の導入を遅らせています。**住まい・定住促進**では、空き家が十分に活用されていないことや、住環境の魅力低下が定住の妨げとなっています。

**防災分野**では、震災の記憶の風化や高齢化の進行により、自助や共助の力が弱まりつつあります。**安心・安全なまちづくり**では、交通事故のリスクや防犯機能の低下が、日常生活の安全性に影響を与えています。**住民主体のまちづくり**においては、公的支援への依存が高まる一方で、自治会活動の担い手不足や参加意義の見直しが求められており、地域の合意形成が難しくなっています。**行財政運営**では、これまでの組織慣習や部署間の連携不足が、将来を見据えた重点的な投資を妨げており、職員の業務負担の増加がデジタル化の進展を遅らせています。

このように、「地域コミュニティの希薄化」や「新たな挑戦への心理的ハードル」といった分野を超えた共通の課題が、デジタル化の推進や新規参入、支え合いの仕組みづくりを阻む大きな要因となっています。各分野の課題が互いに影響し合う中で、行政サービスだけに頼る仕組みには限界が見え始めており、地域全体の持続可能性が問われています。

## 7-4 地域幸福度調査から見た厚真町の特徴

令和6年(2024年)に実施した地域幸福度調査(有効回答404件)から、厚真町の強みと課題が明らかになりました。

### 7-4-1 町の強み(主観・客観ともに高い)

- ・地域とのつながり
- ・健康状態
- ・環境共生
- ・自然災害
- ・住宅環境

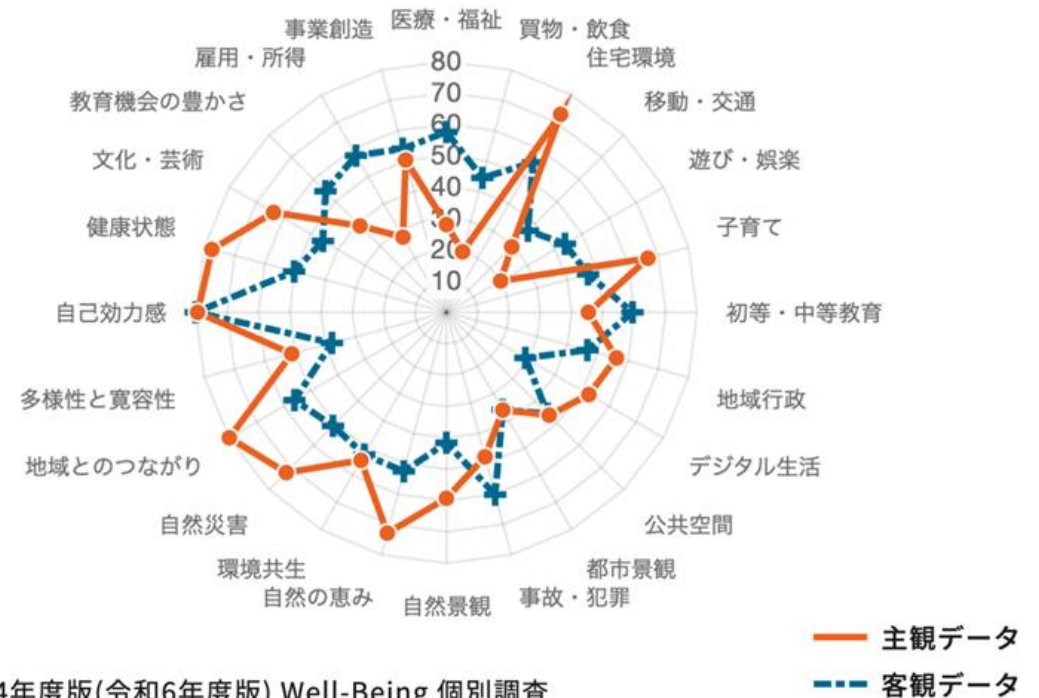
### 7-4-2 町の弱点(主観・客観ともに低い)

- ・公共空間
- ・都市景観
- ・移動交通
- ・買物・飲食
- ・遊び・娯楽

### 7-4-3 主観が客観より低い(実感が統計より悪い)

- ・医療福祉
- ・買物・飲食
- ・移動交通
- ・遊び・娯楽

## カテゴリー別



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

## 7-5 ワークショップから得られた生活実感

令和6年(2024年)8月から9月にかけて、中高生、一般町民、女性を対象とした3回のワークショップを開催し、町民の生活実感を丁寧に聞き取りました。

### 7-5-1 教育機会の豊かさに関する課題

#### ○ 中高生の声

「町内に塾が少なく地域外に出る必要性」「大人が学び続ける施設や機会の少なさ」「町主催ではない文化に関する学び場の少なさ」が挙げられました。また、高齢者が車で移動できなくなることで学びの場にアクセスできないという、移動交通とも関わる課題が明らかになりました。

#### ○ 一般町民の声

「スポーツに関する学びの機会が少ない」「移動図書館を学校のみを対象に実施するのではなく、町民にも実施したらどうか」という意見があり、移動交通の課題がある町のなかで、学びの機会へのアクセスの豊かさをいかに向上させるかが議論されました。

### 7-5-2 医療・福祉に関する課題

#### ○ 中高生・一般町民の声

「車がないため自由に行動できない」という移動交通に関わる課題が多く寄せられました。「専門的な医療の必要性」や「認知症への不安」の声も挙げられています。

健康状態に関する主観データは非常に良い一方で、客観データが低いことから、今後、高齢化がますます進むなかで主観数値も大幅な低下が予想されるため、医療・福祉については、移動の課題を解決することが極めて重要です。

### 7-5-3 買物・飲食に関する課題

#### ○ 一般町民の声

「札幌や苫小牧などの地域外で買物をする」という声が多く挙げられました。また、大きな小売店ができることで個人商店への影響もあるため、「個人商店が宅配機能を持つことで移動交通の課題もあわせて解決しつつ、地域内での買物に対する満足度をあげていく」というアイデアも出されました。

#### 7-5-4 多様性と寛容性に関する課題

##### ○ 一般市民の声

「新たな家を借りる際に、つながりがあれば借りられるものの、地域外から入ってきた際に家探しに苦労をした」という声があり、地域とのつながりが強い一方で、見知らぬ他者に対する寛容性の課題が確認できました。

#### 7-5-5 雇用・所得に関する課題

##### ○ 女性の声

データを女性のみ限定すると全体で見た場合の偏差値よりもさらに低下することから、町内の女性は特に「雇用・所得」に関する課題を抱えていることが推測できます。ワークショップでも、「数時間だけ農作業の手伝いをするなど、短時間の雇用におけるマッチングが機能すること」など、隙間時間を活かした多様な働き方の必要性に関する意見が寄せられました。

#### 7-5-6 デジタル生活に関する課題

##### ○ 女性の声

子どもの送迎や祖父母の介護などを担う中心的な役割を、地域の女性が担っているという声が多く寄せられました。その結果、自分のために使える時間が限られ、「人生の待機時間」が長くなっていると感じている人が少なくありません。

自由に使える時間が少ない状況では、自ら情報を探しに行ったり、新しい行動を起こしたりすることが難しくなります。このことから、必要な情報が十分に届いていない可能性があることが分かりました。今後は、デジタル技術を活用した分かりやすい情報発信や、生活する一人ひとりに確実に情報が届くような工夫が求められます。

#### 7-5-7 移動・交通の課題(全世代共通)

中高生ワークショップ、一般市民ワークショップ、女性限定ワークショップのいずれにおいても、「移動・交通」に関する課題が寄せられています。移動・交通に関する課題は、若年世代からシニア世代まで全てにまたがる課題であり、塾の送迎から生活必需品の購入、病院への通院など多岐にわたる町のボトルネックであることが確認できています。

## 7-6 厚真町の強みと課題～データと対話から～

厚真町は、人口減少と少子高齢化を背景に、あらゆる分野で担い手不足と経済的な負担増が深刻化しています。職員ワークショップで明らかになった課題構造では、「人材や施設などのリソース不足」「経済的な負担の増加」「暮らし方や考え方の多様化により求められる支援が広がっていること」「地域での関係性の希薄化」「まちへの興味・関心・意識の低下」「移動手段の制約」「公的な支援への期待の高まり」などが、町全体の課題を深刻化させる構造的なボトルネックとなっています。

地域幸福度調査の結果から、地域とのつながりや健康状態、自然との共生といった点は、厚真町の強みであることが確認されました。一方で、移動交通や買物・飲食、公共空間、遊び・娯楽などについては、課題があることが明らかになりました。

特に、医療福祉、買物・飲食、移動交通、遊び・娯楽の分野では、統計データで示される状況よりも、住民の感じている不便さのほうが大きく、日々の暮らしの中で課題を実感している様子が浮き彫りになっています。

町民ワークショップでは、中高生、一般町民、女性のいずれからも「移動・交通の不便さ」が最も多く指摘されました。この課題は、学びの機会、医療・福祉、買物・飲食、働き方、情報へのアクセスなど、生活のあらゆる場面に影響を及ぼしており、全世代が共通して抱える大きな課題です。

これらの課題は互いに影響し合い、一つの分野の課題が他の分野にも波及する構造になっています。住民、事業者、行政が力を合わせ、施策どうしの連携と相乗効果を意識した総合的な取組が求められています。

## 第 2 編 基本構想

## 第2編 基本構想

### 第1章 基本構想とは

この章では、厚真町がこれからどの方向へ進んでいくのかを示す「地図」と、施策をどのような順序で進めていくのかを示す「道筋」を描いています。

18の施策について作成したロジックモデル（取組を進めるための設計図）を土台とし、課題構造マップから見えてきた、特に効果が高いポイント（レバレッジポイント）を起点に、計画を進めていきます。

具体的な事業の内容については、次に策定する基本計画で定めることとし、本章では、町がめざす将来像と大きな方針を共有します。

計画期間は令和8年度から17年度（2026～2035年度）までとし、2050年の姿を見据えた内容としています。

### 第2章 10年後の将来像

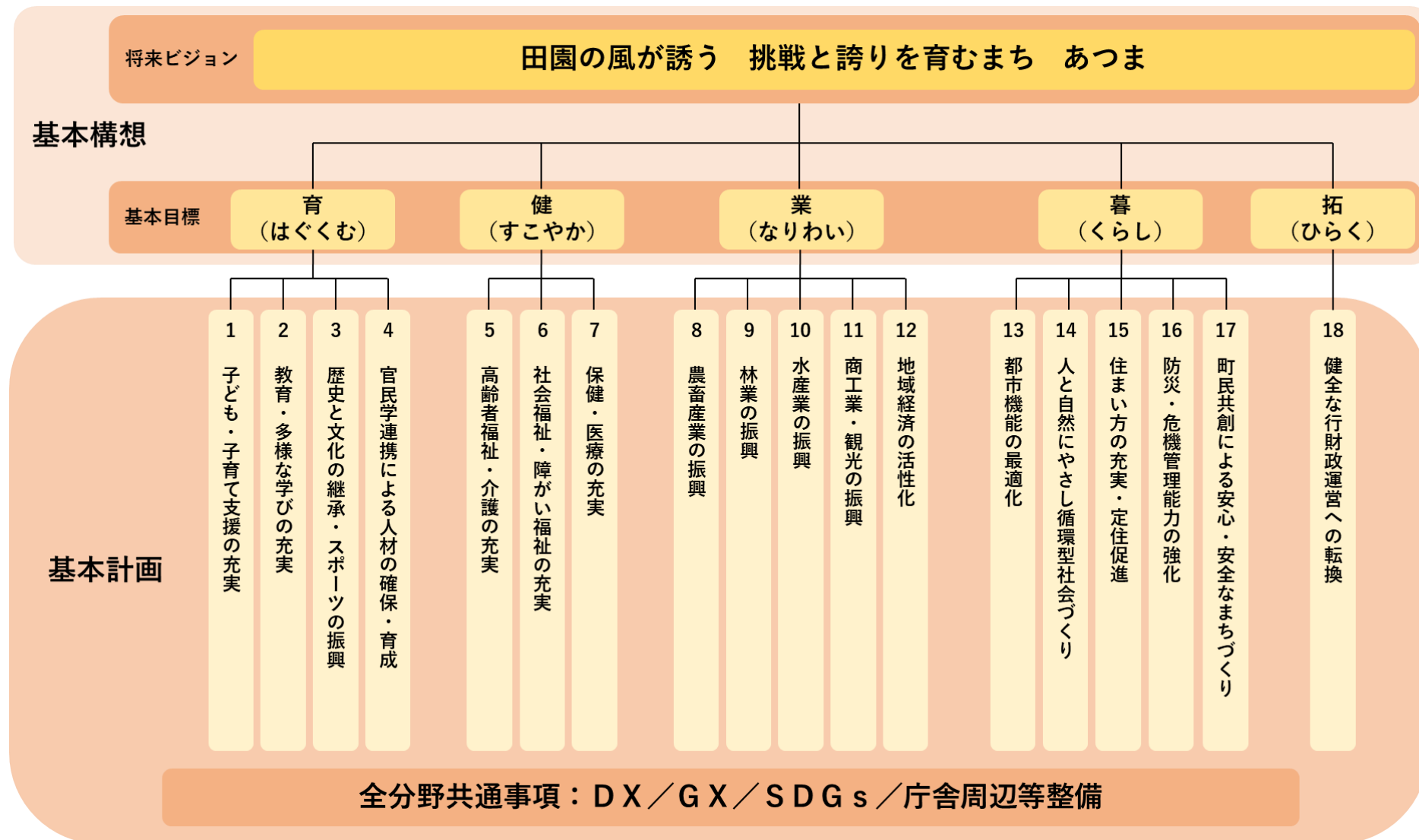
#### 田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま

厚真町は、田園の広がりや海・山・川に恵まれた風土のもと、人と自然が寄り添う暮らしを育んできました。私たちは、この豊かな環境を次の世代へと引き継ぎながら、子どもから大人まで、一人ひとりが自分らしい歩みの中で、時には一歩踏み出す「挑戦」を重ねていけるまちをめざします。

ここに集い、ふだんの暮らしを営むこと自体が尊重され、小さな挑戦も、挑戦しない穏やかな日常も、どちらもまちの大切な財産として認め合うことで、「あつまるだけで、いいまち。」と実感できる誇りを育んでいきます。こうした田園の風に誘われるような心地よさと、一人ひとりの挑戦と誇りがめぐるまちづくりを通じて、「田園の風が誘う 挑戦と誇りを育むまち あつま」の実現を目指します。

### 第3章 基本目標と施策体系

課題構造マップで整理した19の政策分野をもとに、施策の検討を進める過程で、親和性の高い「安心・安全なまちづくり」と「住民主体のまちづくり」を統合し、**18 施策**に再編しました。これらを**5つの基本目標**に整理し、施策体系を構築しています。



### 3-1 育（はぐくむ）

#### ・ねらい

子どもから大人まで、多様な学びの場と機会を確保し、地域への愛着と誇りを育みます。

#### ・方針

質の高い教育・保育の提供、生涯学習の選択肢の保証、文化・スポーツ活動の充実、官民学連携による人材の確保・育成を進めます。

#### ・到達像

経済的・精神的負担が軽減され、安心して子どもを育てられる状態。多様な学びと交流の機会が日常化し、地域に根ざした人材が育ち、活躍の場が広がる好循環が根づきます。

#### ・施策

1. 子ども・子育て支援の充実
2. 教育・多様な学びの充実
3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興
4. 官民学連携による人材の確保・育成

### 3-2 健（すこやか）

#### ・ねらい

誰もが安心して暮らせる医療・福祉の基盤を整えます。

#### ・方針

地域包括ケアシステムの充実、インクルーシブな社会の実現、必要な医療へのアクセス確保を進めます。

#### ・到達像

地域の支えのもと、孤立することなく安心して暮らせる環境が整い、十分な支援と社会参加の機会が確保され、必要な医療を受けられる状態。心身ともに健やかな暮らしが続きます。

#### ・施策

5. 高齢者福祉・介護の充実

6. 社会福祉・障がい福祉の充実
7. 保健・医療の充実

### 3-3 業（なりわい）

#### ・ねらい

地域の産業基盤を強化し、多様な働き方と新たな事業を生み出します。

#### ・方針

事業者が経営を継続できる環境づくり、持続可能な資源管理、地域資源を活用した販路開拓、域内経済循環の促進を進めます。

#### ・到達像

担い手が安定的に確保・育成され、安定した経営環境のもとで、雇用を生み出し地域経済の発展に寄与できる状態。魅力ある雇用の選択肢が増え、地域に継続的な活力が循環します。

#### ・施策

8. 農畜産業の振興
9. 林業の振興
10. 水産業の振興
11. 商工業・観光の振興
12. 地域経済の活性化

### 3-4 暮（くらし）

#### ・ねらい

快適で便利な生活環境を整え、持続可能な暮らしを実現します。

#### ・方針

インフラや公共施設の適切な維持管理、環境負荷の軽減、魅力的な居住環境の整備、防災・危機管理体制の強化、町民共創によるまちづくりを進めます。

## ・到達像

適度な都市機能を享受しながら、環境負荷の軽減を目指した持続可能なライフスタイルを実践できる状態。魅力的な居住環境のもとで、安心して長く住み続けたいと感じられ、リスクへの備えが充実し、様々な主体とともに地域の課題解決に取り組める状態。静けさと賑わいが両立する持続可能な日常が実現します。

## ・施策

13. 都市機能の最適化
14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり
15. 住まい方の充実・定住促進
16. 防災・危機管理能力の強化
17. 町民共創による安心・安全なまちづくり

## 3-5 拓（ひらく）

### ・ねらい

持続可能な財政運営を確立し、職員が誇りを持って働ける組織へ転換します。

### ・方針

効率的で効果的な施策・事業への束ね、先端技術の有効活用、組織ガバナンスの強化、職員の Well-Being 向上を進めます。

### ・到達像

持続可能な財政運営を確立し、効率的で効果的な施策・事業に束ねることができる状態。やりがいを持って、いきいきと働くことができ、心理的安全性が担保され、Well-Being が向上している状態。住民と行政との風通しが良い関係性のもと、効率的で透明性の高い行政が実現し、誇りを持てる「住み続けたい・帰りたくなる」まちが定着します。

### ・施策

18. 健全な行財政運営への転換

## 第4章 「あつまるだけで、いいまち。」～あつまチャレンジ～

厚真町は、豊かな自然環境と地域の絆に加え、新千歳空港やダブルポートを有する苫小牧に隣接し、高速道路網にも接続する優れた立地・アクセス環境を有しています。こうした地理的優位性は、札幌圏や東京圏を含む広域的な交流・連携を可能にする、町の大きな強みです。一方、人口減少や高齢化の進行は、地域経済、地域社会、行政運営の持続性に影響を及ぼす、本町が克服すべき構造的かつ本質的な課題です。このため、今後10年間において、5つの重点的な挑戦に取り組みます。人が育ち巡り、顔が見え、産業が循環し、安心が守られ、役場が変わる。これらの挑戦を通じて、「あつまるだけで、いいまち。」と実感できるまちづくりを進めます。

### 4-1 人が育ち、巡り、帰ってくるまちへ ～人材好循環転換チャレンジ～

人材不足は「人がいない」のではなく、「人が集まり続ける構造がない」ことが考えられます。働く環境を整え、やりがいを高めることで、人材が自然と集まり、定着し、帰ってくる好循環を作ります。保育士、教員、介護職員、医療従事者、農業・林業・漁業・商工業など全分野での人材確保・育成を通じて、「人が育ち、巡り、帰ってくるまち」を実現します。

#### →代表的な取組

- |              |                       |             |
|--------------|-----------------------|-------------|
| ・起業家人材の確保・育成 | ・農林水産業担う後継者、担い手の確保・育成 | ・保育人材の確保・育成 |
| ・文化財ガイドの育成   | ・福祉・保健・医療の人的基盤の形成支援   | ・技術職志望者の支援  |
| ・ふるさと教育の推進   | ・行政職員の成長を促す人材育成の基盤整備  |             |

### 4-2 顔が見え、あいさつ以上のかかわりがうまれるまちへ ～共創社会関係資本ブーストチャレンジ～

地域のつながりが薄れると、子育ての孤立、高齢者の孤立、防災力の低下など課題が連鎖します。世代を超えた人々が自然に集い、交流し、信頼が生まれ、共助が育つ「関係性を設計するインフラ」を整備します。子育て支援、文化・スポーツ、高齢者福祉、防災、町民共創を一体的に進めることで、「顔が見え、あいさつ以上のかかわりがうまれるまち」を目指します。

#### →代表的な取組

- |                         |                    |                |
|-------------------------|--------------------|----------------|
| ・こども園・児童会館・子育て支援関連施設の充実 | ・プレーパーク等子どもの居場所の充実 | ・文化交流施設・広場の整備  |
| ・重層的生活支援体制の整備           | ・住民主導による防災力の強化     | ・住民活動の推進       |
| ・地域運営組織の活動支援            | ・文化・スポーツ・交流活動の充実   | ・ふるさと教育の推進（再掲） |

#### 4-3 地域で生み出し、地域で巡る・膨らむまちへ ～産業・地域経済乗数最大化チャレンジ～

農業、林業、漁業、商工業、観光が力を合わせることで、経済が地域内で循環し、成長する仕組みをつくります。各産業の基盤維持・強化と担い手確保から事業の魅力向上、新規参入へと続く好循環を全産業で実現し、企業や大学との連携による産業間のイノベーションにより、地域で生まれた付加価値が地域内で巡り、「地域で生み出し、地域で巡る・膨らむまち」を実現します。

##### →代表的な取組

- |              |                  |              |
|--------------|------------------|--------------|
| ・外部人材との連携促進  | ・大学や研究機関との連携促進   | ・起業・新事業の創出支援 |
| ・町内商工業者の経営支援 | ・IC型ポイントカードの普及啓発 | ・官民連携の推進     |
| ・産業基盤の維持・強化  |                  |              |

#### 4-4 地域で備え、地域で守る、安心のまちへ ～暮らし安心レジリエンス統合チャレンジ～

医療、福祉、交通を一体的に見直し、防災と地域のつながりを深めるとともに、住宅、エネルギー、環境についてもまとまりのある取組を進めます。こうした取組を通じて、道路や施設などの社会インフラの持続性向上と、地域で支え合う仕組みづくりの両面から、暮らしを支える土台を整えます。また、防災を日常の中に「文化」として根づかせ、震災の経験を次の世代へしっかりと引き継ぎながら、町民一人ひとりが暮らしやすさを実感できる環境をつくります。そして、「地域で備え、地域で守る、安心のまち」を実現し、厚真町に住み続けたいと思えるまちづくりにつなげます。

##### →代表的な取組

- |                       |                       |                    |
|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| ・カーボンニュートラルを目指した取組の推進 | ・グリーン・トランスフォーメーションの加速 | ・公共施設の再編・総合管理の推進   |
| ・安心・安全な省エネ住宅の整備促進     | ・多機能型診療所の推進           | ・WEB見守り環境の整備       |
| ・地域防災組織の活動促進          | ・避難施設・経路の整備           | ・デマンド交通・スクールバス等の運行 |
| ・社会インフラの持続性向上         |                       |                    |

#### 4-5 挑み続け、変わり続け、明日を拓くまち（役場）へ ～行政経営 OS 刷新チャレンジ～

役場を、決められたことをこなす組織から、自ら考え、学び、進化し続ける組織へと変えていきます。すべての施策に具体的な目標を設定し、データに基づいて成果を検証しながら、素早く改善を重ねます。また、部署の枠を超えた定期的な見直しの場を設け、施策同士が連携して効果を高められる体制をつくります。町からの情報発信と町民の声を受け止める仕組みを一体的に充実させ、データも活用しながら、町民との信頼関係を深めます。あわせて、職員一人ひとりが働きがいを感じられる職場環境を整えます。こうした行政の基盤づくりによって他の4つの挑戦を力強く支え、「挑み続け、変わり続け、明日を拓くまち（役場）」を実現します。

##### →代表的な取組

- |             |                       |            |
|-------------|-----------------------|------------|
| ・ 行政 DX の加速 | ・ AI の活用促進            | ・ 情報発信力の強化 |
| ・ 施策取組状況の開示 | ・ 行政職員の成長を促す人材育成の基盤整備 |            |



## 第3編 基本計画

## 第3編 基本計画

### 第1章 基本計画の概要

#### 1-1 この基本計画の位置づけ

本計画は、基本構想に掲げる将来像の実現に向けて、具体的な施策の方向性と成果指標を明示するものです。全18施策について、取組内容から最終的な社会的インパクトまでの道筋を「ロジックモデル」として可視化し、成果志向の行政運営を推進します。

#### 1-2 ロジックモデルと社会的インパクト

**ロジックモデル**とは、施策の取組（事業・活動）から社会的インパクト（地域における望ましい変化）までの因果関係を論理的に整理したものです。

各施策について、取組によって生み出される「**直接的結果**」と、その結果として地域や受益者に生じる「**社会的インパクト**」を明示しています。

直接的結果については、その実施状況を測る「**結果指標**」を設定しています。社会的インパクトについては、初期成果（2～4年）、中期成果（5～8年）、長期成果（9～10年）の3段階で整理し、各施策が目指す望ましい変化を明示しています。長期成果は、各施策が目指す「この施策が実現する未来」として表現しています。

これらを確認しながら施策の進捗状況を把握し、PDCAサイクルによる継続的な改善を図ります。

#### 1-3 SDGs との関連について

本計画は、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献するため、各施策とSDGsの17のゴールとの関連を明示しています。厚真町は、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりを推進します。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

## 第2章 基本計画の見方 | 施策・ロジックモデルの読み解き方

### 2-1 見開きページの構成

本章では、厚真町の18の基本計画について、左ページに**施策の概要**、右ページに**ロジックモデル図**を配置し、基本計画の全体像と成果までの道筋を可視化しています。

### 2-2 左ページ | 施策の概要

#### ■施策が実現する未来（長期成果）

施策が最終的に目指す社会的インパクトの長期成果（長期的な理想の姿）を示しています。

#### ■施策要旨

施策の目的と主な取組内容を180~200字程度で簡潔に説明しています。

#### ■担当部署

施策を推進する町の担当課を示しています。

#### ■直接的結果と結果指標

施策の取組によって直接生み出される成果と、その測定指標を示しています。

【表の見方】

例：

	直接的結果	結果指標	
取組（事業・活動）から うまれる直接的な結果	資格取得者の増加	保育士資格取得者数	直接的結果を測る具体的な指標 (例：参加者数、実施件数など)

#### ■社会的インパクト（初期・中期）

直接的結果によってうまれる受益者や地域の変化・成果を、初期成果（2~4年）と中期成果（5~8年）に分けて示しています。

## 【表の見方】

例：初期・中期の区分

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	保護者	子育てに必要な経済的負担が軽減	申請件数 申請実績

受益者（便益を受ける対象）

社会に生じる変化や成果

※結果指標の現状値・目標値については、次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」で詳しく記載しています。

## 2-3 右ページ | ロジックモデル図

取組（事業・活動）から社会的インパクト（地域における望ましい変化）に至るまでの因果関係を、図で示しています。

### ■ロジックモデルの流れ

左側から、取組（事業・活動） → 直接的結果 → 社会的インパクト（地域における望ましい変化）の流れになっています。

- ・ **取組（事業・活動）**：町が実施する具体的な事業や活動
- ・ **直接的結果**：取組の直接的な結果
- ・ **社会的インパクト（初期成果）**：初期的（2～4年）に生じる社会や受益者の変化
- ・ **社会的インパクト（中期成果）**：中期的（5～8年）に生じる社会や受益者の変化
- ・ **社会的インパクト（長期成果）**：長期的（9～10年）に生じる社会や受益者の変化

### ■受益者の表示

社会的インパクトの各成果に、その成果を受ける対象（町民、事業者など）を記載しています。

## 2-4 指標の詳細について

各施策の結果指標の現状値と目標値、および社会的インパクトの一覧については、次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」で詳しく記載しています。施策の進捗管理や評価の際には、両章を併せてご参照ください。

## 2-5 この章の活用方法

**施策の全体像を把握したい場合**：左ページの施策概要をご覧ください

**施策の成果までの道筋を理解したい場合**：右ページのロジックモデル図をご覧ください

**具体的な数値目標を確認したい場合**：次章「18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧」をご覧ください

## 第3章 基本計画（ロジックモデル集）

### 3-1. 子ども・子育て支援の充実

施策が実現する未来（長期成果）

## 地域ぐるみで安心して子どもを育てられるまちの実現



#### ■施策要旨

■担当部署：住民課、生涯学習課

子育て世帯の経済的・精神的な負担を軽減し、質の高い保育・教育サービスを提供します。多様な交流・体験機会の創出と切れ目ない相談支援体制の構築により、子どもの健やかな成長と保護者の笑顔を支えます。保育人材の確保・育成を進めるとともに、地域全体で子育てを支え合う仕組みづくりを推進し、子どもと保護者が安心してつながりを実感できるまちを目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
資格取得者の増加	保育士資格取得者数
情報共有の拡大浸透	子育て情報発信回数
職場環境の向上	研修満足度/職員満足度
制度の利用者の増加	制度利用者数
主体的な遊び場の充実	利用者実績数（属性の把握）



#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	保護者	子育てに必要な経済的負担が軽減	申請件数 申請実績
	子ども 保護者	居場所が地域に増加	施設利用頻度 満足度
	子ども 保護者	保育の質の向上	保護者の保育満足度
	保護者	子育てに必要な精神的負担が軽減	子育て支援の満足度
中期成果	子ども	笑顔で暮らしている	子どもの生活満足度・ポジティブ感情
	保護者	笑顔で子育てできている	育児幸福感尺度

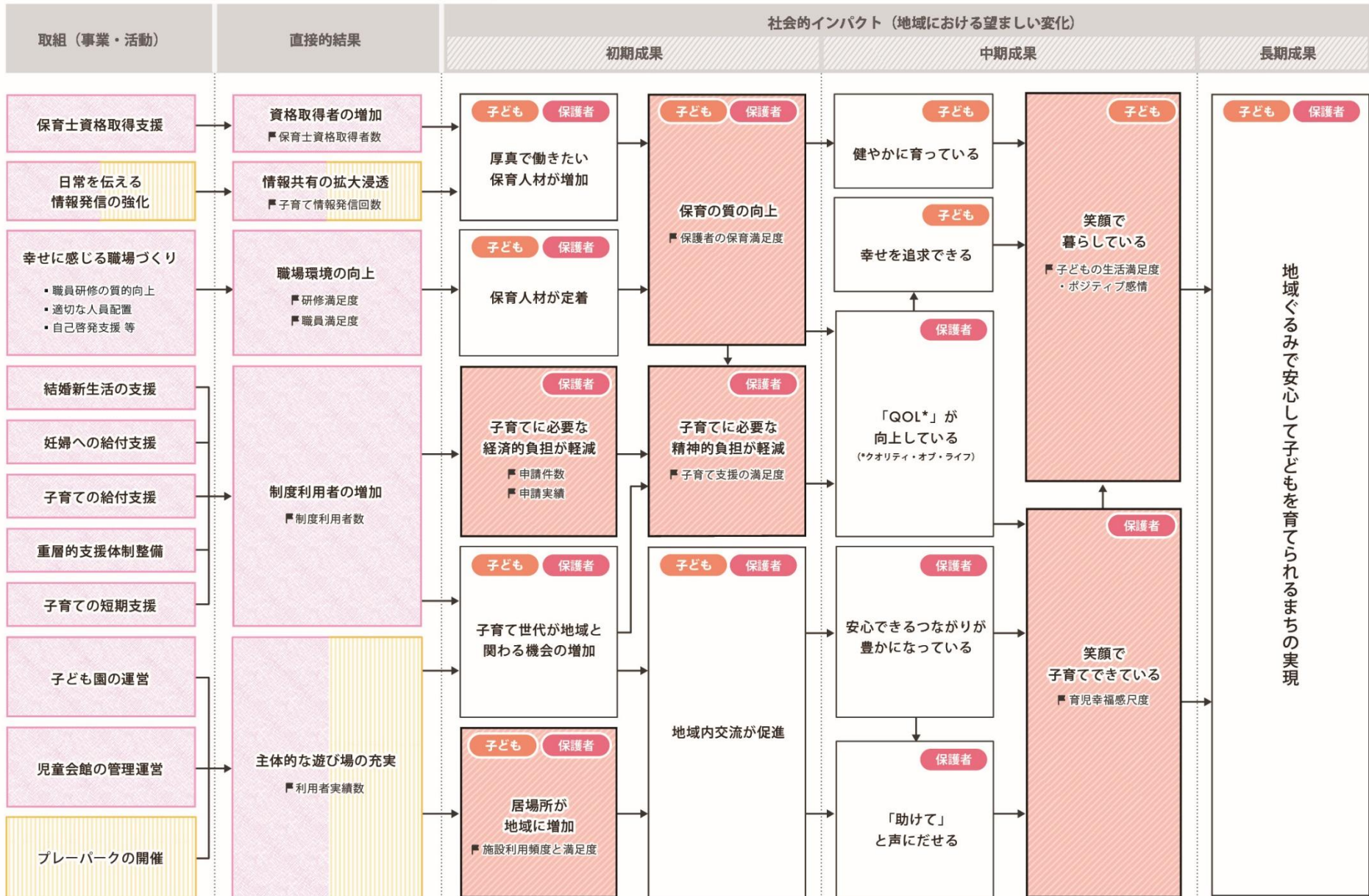
# 1 | 子ども・子育て支援の充実

住民課

生涯学習課

指標

重要な成果



## 3-2. 教育・多様な学びの充実

施策が実現する未来（長期成果）

### 誰もが学びの主人公となり、未来をともに生きていける地域の実現



#### ■施策要旨

■担当部署：生涯学習課（教育委員会）、住民課

子どもから大人まで、主体的に学び、多様な価値観を受容できる環境を整備します。学校教育の質向上、ふるさと教育の推進、多様な学びの機会創出により、子どもの基礎学力と主体性を育みます。地域人材の活用や安心安全な学習環境の充実を通じて、誰もが学びの機会を見つけ、地域への誇りを持ちながら、未来をともに創る人材を育成し、学びの主人公となれる地域を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
相談者の増加	相談者数 多様な学びに対する相談
安心安全な学習環境の充実	いじめ認知件数 重大事態件数 重大事故件数
教育水準の向上	教員研修の開催数
制度利用者の増加	制度利用者数
参加者の増加	町民参加者数
主体的な居場所の充実	居場所の有無

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	子ども	基礎学力が維持されている	全国学力・学習状況調査
	子ども	自ら考え行動できている	全国学力・学習状況調査 ふるさと教育
中期成果	子ども	まちづくりに参加できている	地域活動参加率 学力学習状況調査質問紙
	子ども 大人	厚真町に誇りを持っている	コミュニティ信頼・愛着度
	子ども 大人	主体的に学ぶ意欲が高まっている	小学生以上の学習実施率

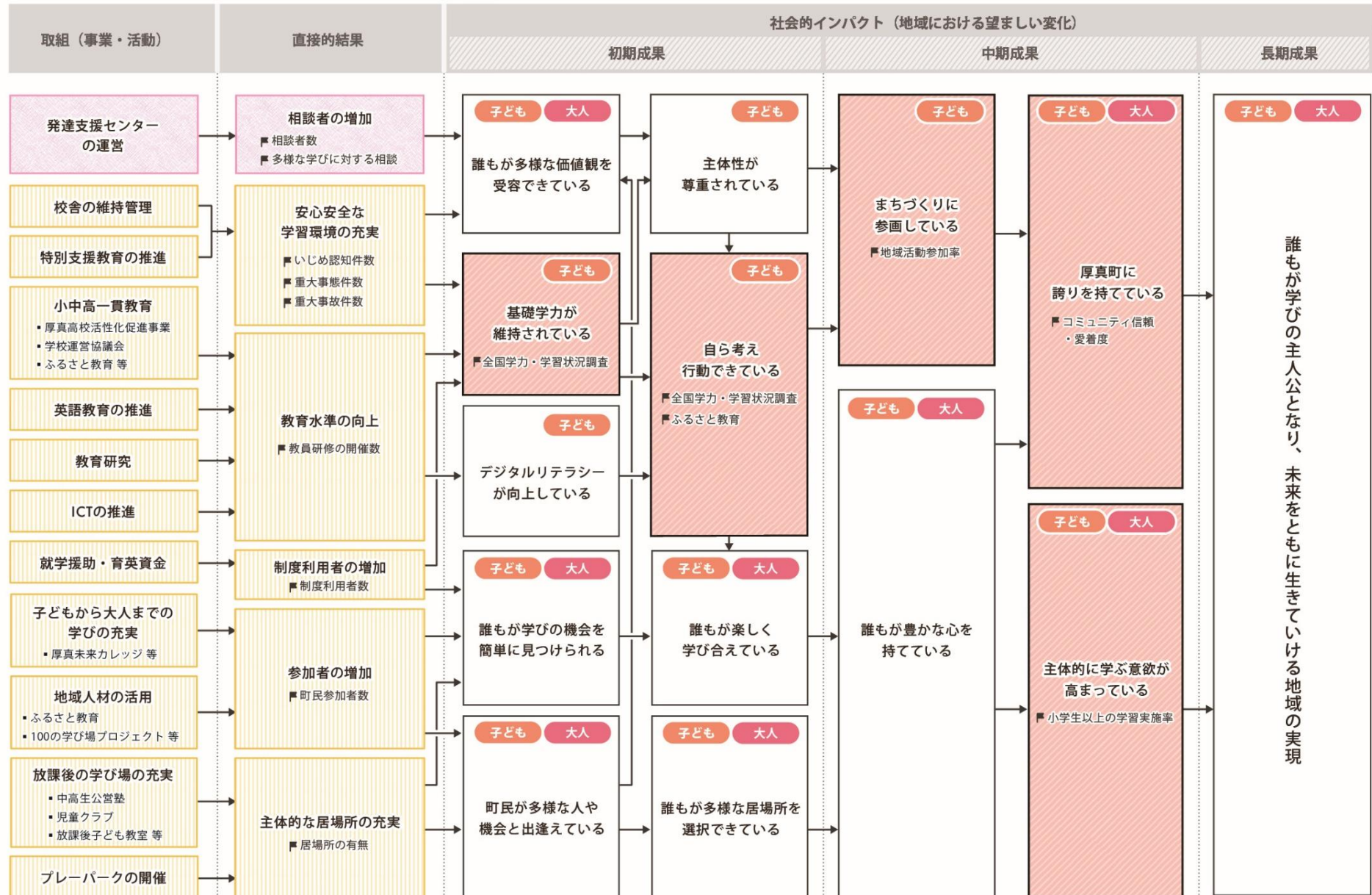
## 2 | 教育・多様な学びの充実

生涯学習課

住民課

指標

重要な成果



### 3-3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興

施策が実現する未来（長期成果）

## 誰もが集い、つながり、楽しみ、いきがいをを感じる暮らしの実現



#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：生涯学習課（教育委員会）、総務課

厚真町の歴史・文化の継承とスポーツ振興により、町民の心身の健康といきがいを育みます。文化財の公開・見学会、文化財ガイドの育成、総合型文化・スポーツクラブの設立を通じて、町民が地域の歴史・文化を学び、スポーツを楽しむ機会を創出します。町内外の人々がつながり、文化・スポーツを通じた交流を深めながら、誰もが集い、幸せを実感できる地域を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
学校保健体育の充実	体力・運動能力調査結果
見学者・来場者の増加	町内・外参加者数
文化財ガイドの増加	文化財ガイドの数
クラブ参加者の増加	登録者数
施設利用の開始	整備率



#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	町民	厚真町の歴史・文化やスポーツを楽しむ人の増加	文化・スポーツイベント参加率
中期成果	町民	厚真町の歴史・文化やスポーツに関する町民主体のコミュニティの増加	スポーツ・文化団体への加入率
	町民	心身の健康が向上	主観的健康感
	町民 町外住民	厚真の歴史・文化に興味を持つ人が増加	地域文化に対する興味度
	町民	幸せの実感の向上	地域生活満足度

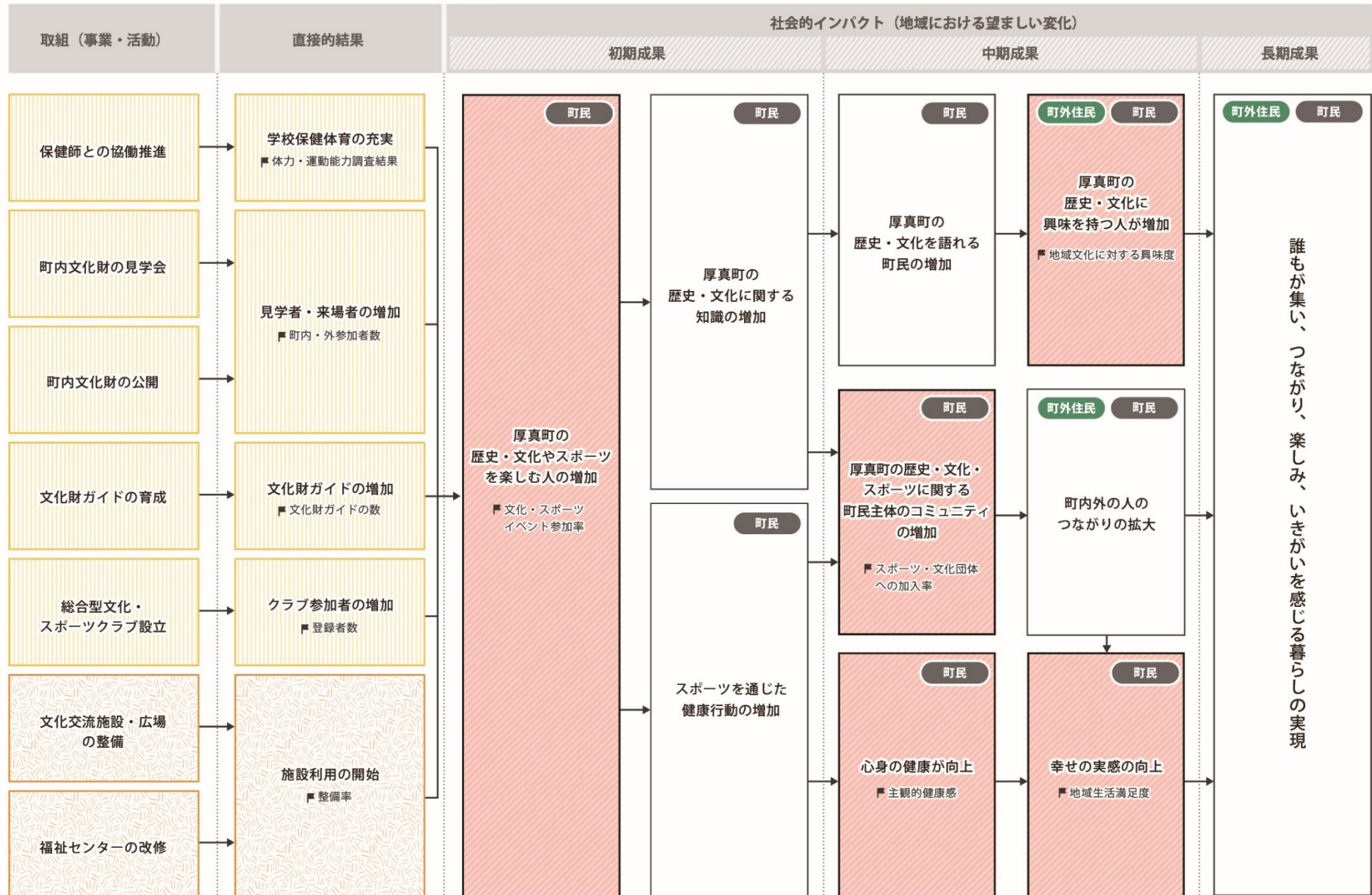
### 3 | 歴史と文化の継承・スポーツの振興

生涯学習課

総務課

指標

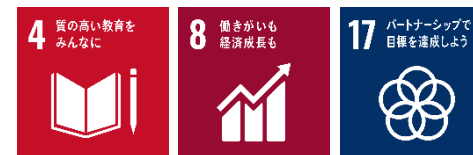
重要な成果



### 3-4. 官民学連携による人材の確保・育成

施策が実現する未来（長期成果）

## 誰もが町内外の人の挑戦を応援できる地域の実現



#### ■施策要旨

■担当部署：まちづくり推進課、産業経済課、生涯学習課（教育委員会）、総務課

官民学が連携し、地域の持続的な発展を支える人材の確保・育成を推進します。町内事業者の経営基盤強化、多様な人材が活躍できる環境整備、実践的な学びの機会創出により、地域に根ざした人材を育てます。新しいチャレンジを応援する風土を醸成し、課題解決力を持つ人材が循環する仕組みをつくることで、誰もが町内外の人の挑戦を応援し、地域全体の活力向上を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
活用事例の増加	活用実績数・内容
挑戦者の増加	起業家数
大学連携事業の増加	連携事業数
活躍する人材の増加	地域おこし協力隊定住者数 地域活性化起業人受入人数
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数
参加者の増加	町民参加者数
観光者の増加	観光者数
情報共有の拡大浸透	閲覧者数・発信者数
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度
周辺地域の整備完了	整備率



#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	町外住民	厚真町に魅力を感じている	訪問者の魅力度
	町民 行政職員	挑戦を受け入れる空気が生まれている	eNPS (従業員・住民推奨度)
	町外住民	町外からまちづくりに関わる人が増加	町外からのまちづくり活動参加者数
中期成果	町民 町外住民	厚真で起業を目指す人が増加	起業相談件数
	行政職員	官民学連携による支援組織が活躍	支援された人・団体の変化 エピソード
	町民	やりたいことを持ち、形にする町民の増加	自己実現プロジェクト数・達成率

#### 4 | 官民学連携による人材の確保・育成

まちづくり推進課

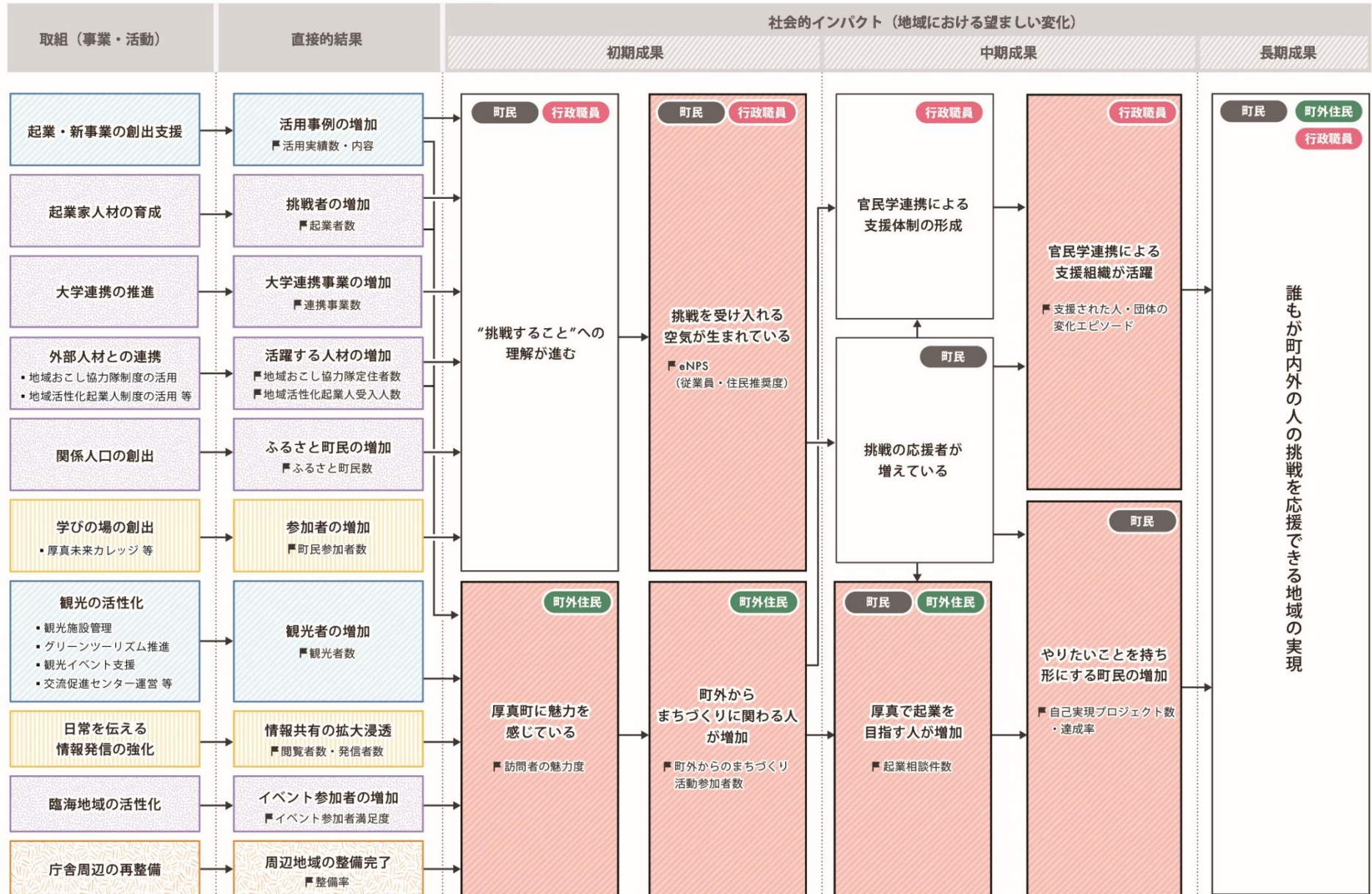
産業経済課

生涯学習課

総務課

目標

重要な成果



### 3-5. 高齢者福祉・介護の充実

施策が実現する未来（長期成果）

## 高齢者が安心して暮らせる地域の実現



#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：住民課

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整備します。認知症予防・支援、フレイル予防、社会参加の促進、介護サービスの充実により、高齢者の心身の健康と生きがいを支えます。地域住民の見守り・支え合いの促進と介護人材の確保・育成を通じて、持続可能な介護資源の維持・拡大を図り、高齢者が生きがいを持って安心して暮らせる地域を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
制度利用者の増加	受給者数
参加者の増加	参加者数
相談者の増加	相談者数
サービスや場所の利用者の増加	利用者数
担い手の増加	ボランティア数



#### 地域にうまれる変化

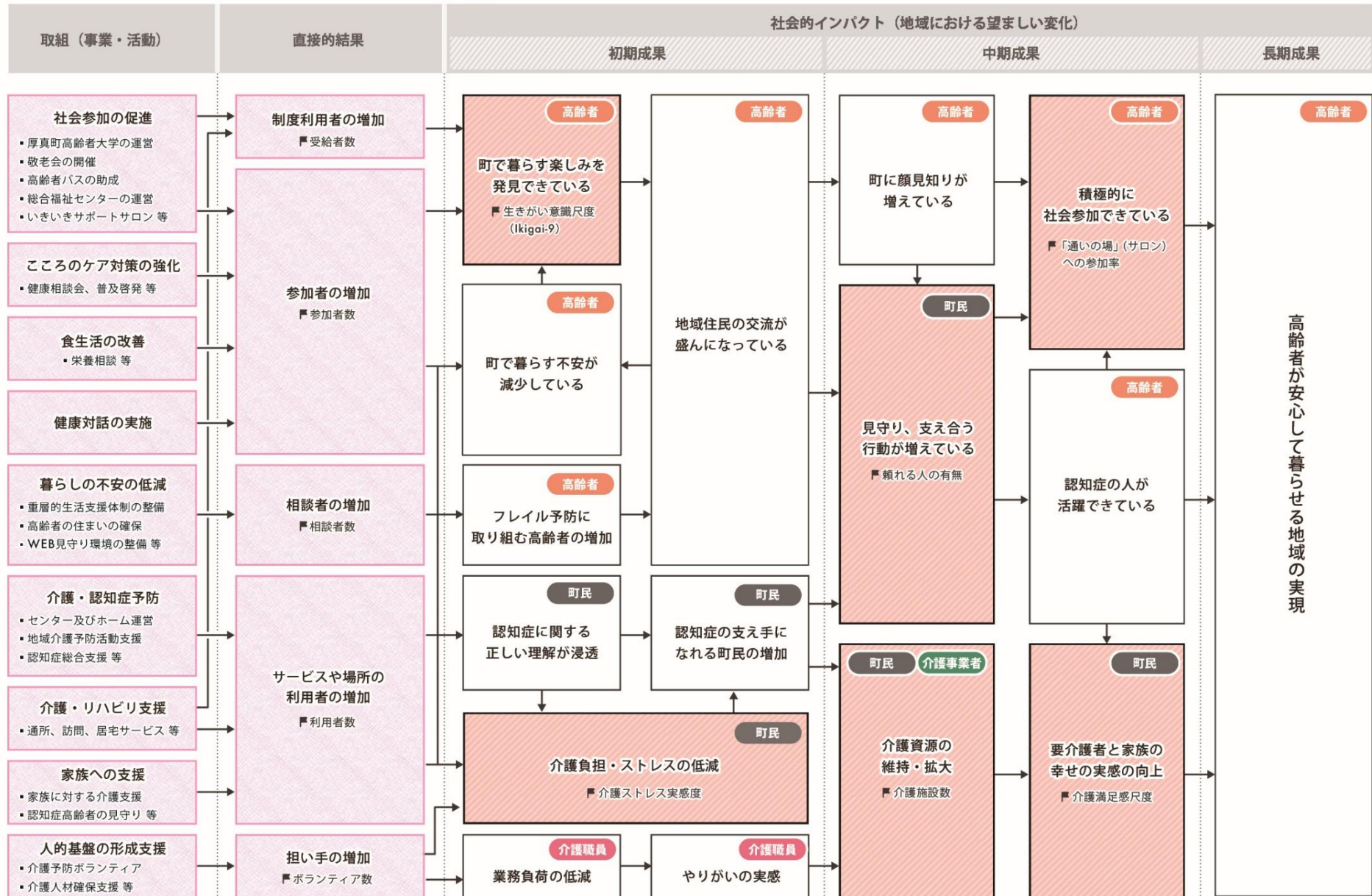
区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	高齢者	町で暮らす楽しみを発見できている	生きがい意識尺度（Ikigai-9）
	町民	介護負担・ストレスの低減	介護ストレス実感度
中期成果	町民	見守り、支え合う行動が増えている	頼れる人の有無
	町民 介護事業者	介護資源の維持・拡大	介護施設数
	高齢者	積極的に社会参加できている	「通いの場」（サロン）への参加率
	町民	要介護者と家族の幸せの実感の向上	介護満足感尺度

5 | 高齢者福祉・介護の充実

住民課

指標

重要な成果



2026年3月

### 3-6. 社会福祉・障がい福祉の充実



施策が実現する未来（長期成果）

## どんな障がい・特性があっても認め支え合うまちの実現

#### ■施策要旨

■担当部署：住民課、生涯学習課（教育委員会）

障がいや特性の有無に関わらず、誰もが自分らしく暮らし、地域社会に参画できる環境を整備します。障がいへの理解促進、特別支援教育の充実、バリアフリーの推進、相談支援体制の強化により、障がい者の自己効力感と地域への関与意欲を高めます。福祉人材の確保・育成を通じて持続可能な支援体制を構築し、どんな障がい・特性があっても認め支え合うまちを目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
福祉人材基盤の形成	採用人数
個性に応じた学習環境の充実	多様な学びの事例
認知度の増加	相談先認知度
参加者の増加	参加者数
利用者の増加	利用者数・利用回数
制度利用者の増加	制度利用者数
被支援者の増加	相談支援件数
利用者の増加	①利用者数・利用日数 ②助成人数・助成延べ件数
バリアフリーの増加	工事完了率

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	障がいのある人 障がいのない人	障がいや特性に対する理解の拡大	支援意欲・多様性との交流意欲
	障がいのある人	町内での暮らしやすさの向上	コミュニティ環境指数（MCEI）
中期成果	障がいのある人 障がいのない人	誰もが互いに支え合っている	地域コミュニティ感覚（BSCS） 相互扶助参加率
	障がいのある人 障がいのない人	誰もが自分らしく暮らせている	主観的幸福度（WHO-5）
	障がいのある人 障がいのない人	誰もが地域社会に参画できている	コミュニティ統合尺度（CIQ）

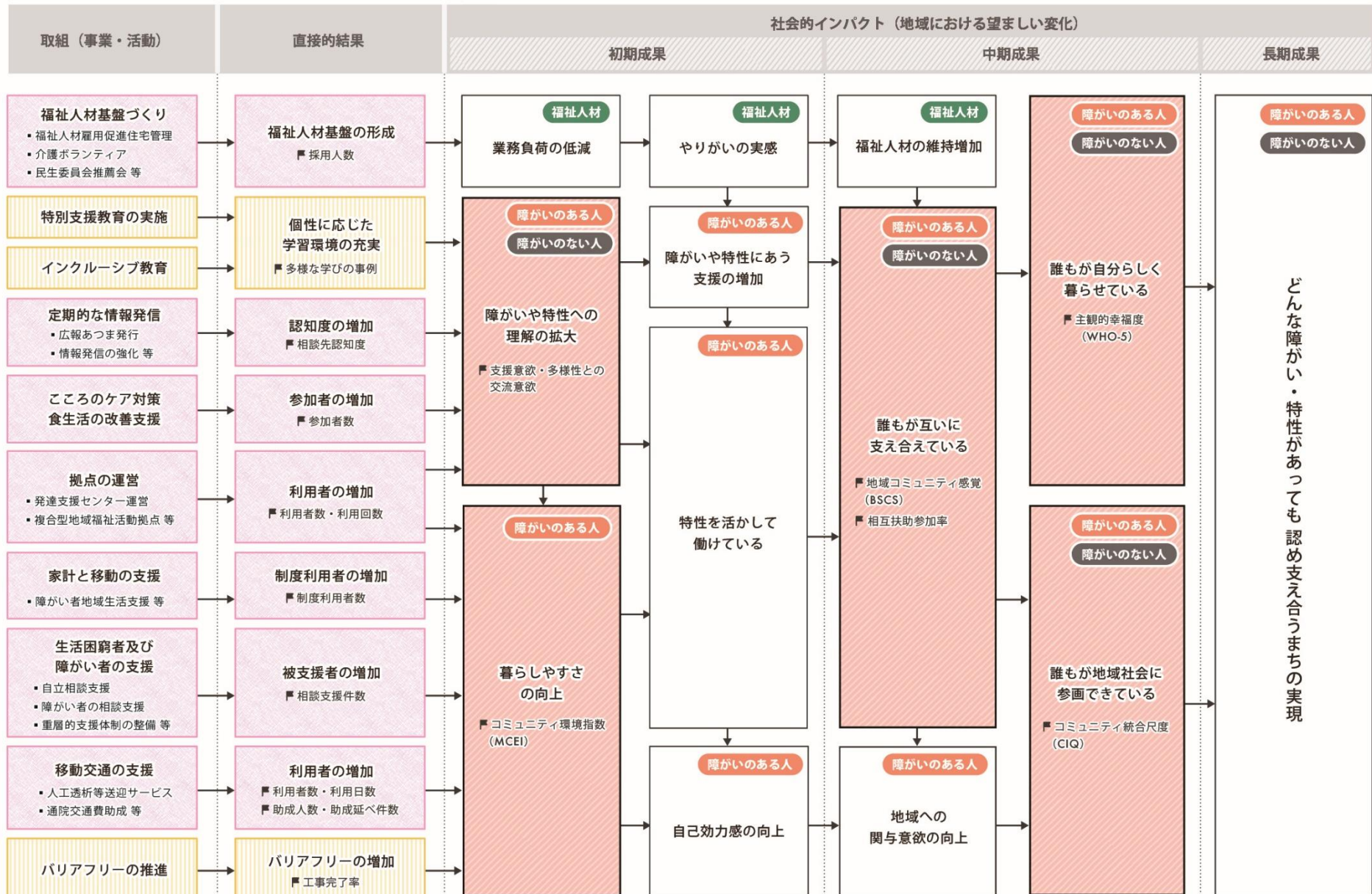
## 6 | 社会福祉・障がい福祉の充実

住民課

生涯学習課

指標

重要な成果



どんな障がい・特性があっても認め支え合うまちの実現

### 3-7. 保健・医療の充実



施策が実現する未来（長期成果）

## 健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちの実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：住民課

町民の心身の健康維持・増進と地域医療基盤の安定を目指します。心の健康、食習慣、身体の健康に関する正しい知識の普及と健診・検診受診の継続促進により、健康行動の増加と病気の重症化抑止を図ります。医療従事者の確保、職場環境の向上、地域医療機関の経営安定により、持続可能な地域医療体制を構築し、健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちを目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
参加者の増加	参加者数
検診初回受診者の増加	検診初回受診率
保健医療の連携維持	連携実施数
かかりつけ医として利用する町民の増加	健康状態不明者の人数



#### 地域にうまれる変化

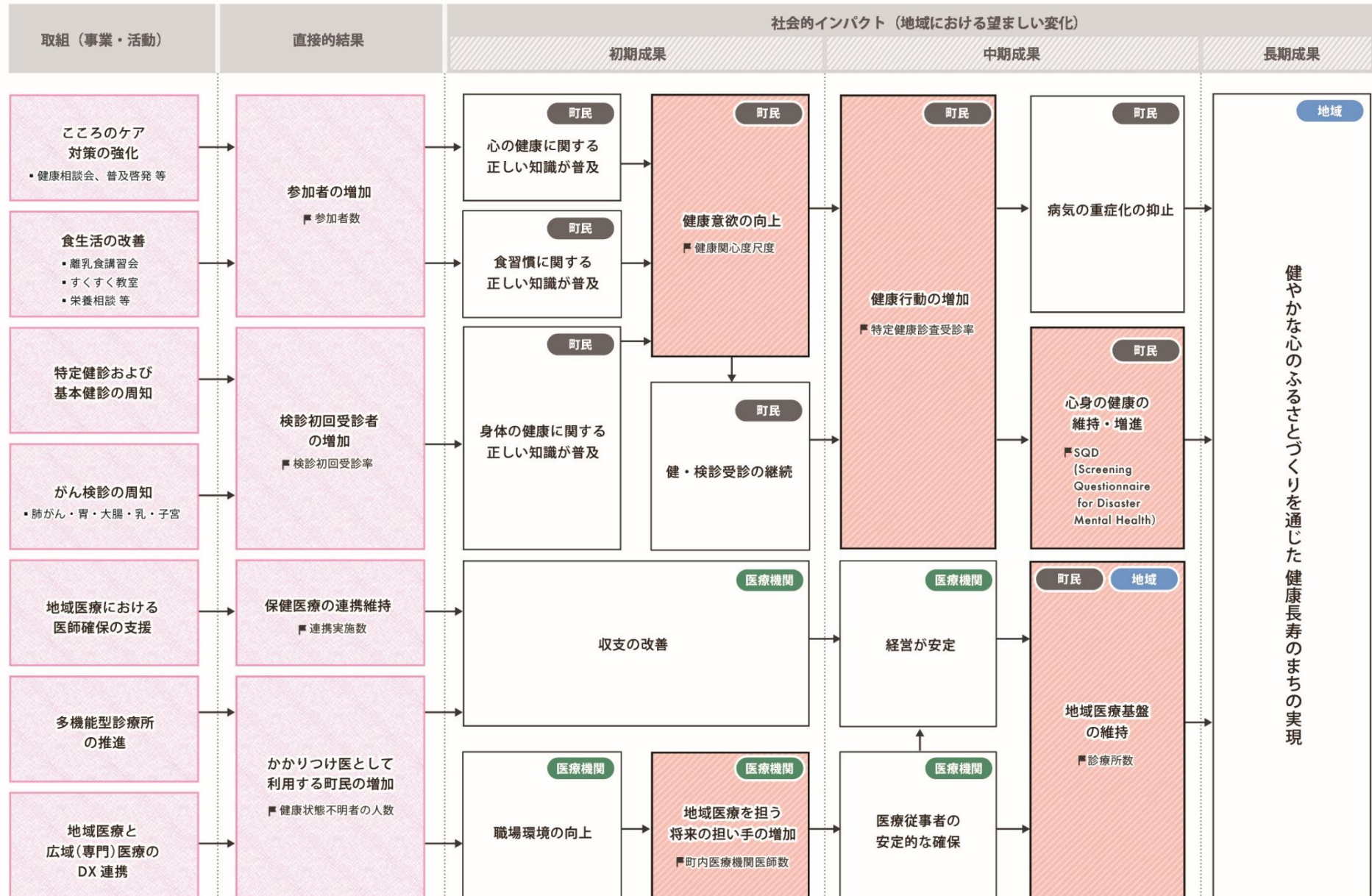
区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	町民	健康意欲の向上	健康関心度尺度
	医療機関	地域医療を担う将来の担い手の増加	町内医療機関医師数
中期成果	町民	健康行動の増加	特定健康診査受診率
	町民	心身の健康の維持・増進	SQD(Screening Questionnaire for Disaster Mental Health)
	地域町民	地域医療基盤の維持	診療所数

7 | 保健・医療の充実

住民課

指標

重要な成果



### 3-8. 農畜産業の振興



施策が実現する未来（長期成果）

## 農畜産業者の魅力ある経営の実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：産業経済課

厚真町の基幹産業である農畜産業の持続的な発展を推進します。新規就農者・後継者の育成、スマート農業の推進、土壌診断による生産性向上、鳥獣害対策により、多様な人材が参入し、意欲的に挑戦できる環境を整備します。乳質・乳量の向上や市場取引価格の向上を通じて経営を安定化させ、厚真産農産物のファンを増やし、農村コミュニティが活気に満ちた魅力ある経営の実現を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
就農相談件数の増加	相談件数
農家の後継者の増加	親元で働く従事者数
意欲的な挑戦の継続	支援件数
農機導入の拡大	導入率
捕獲頭数の拡大	エゾシカ捕獲頭数
農地集積の向上	農地集積率
優良な個体の確保	確保件数



#### 地域にうまれる変化

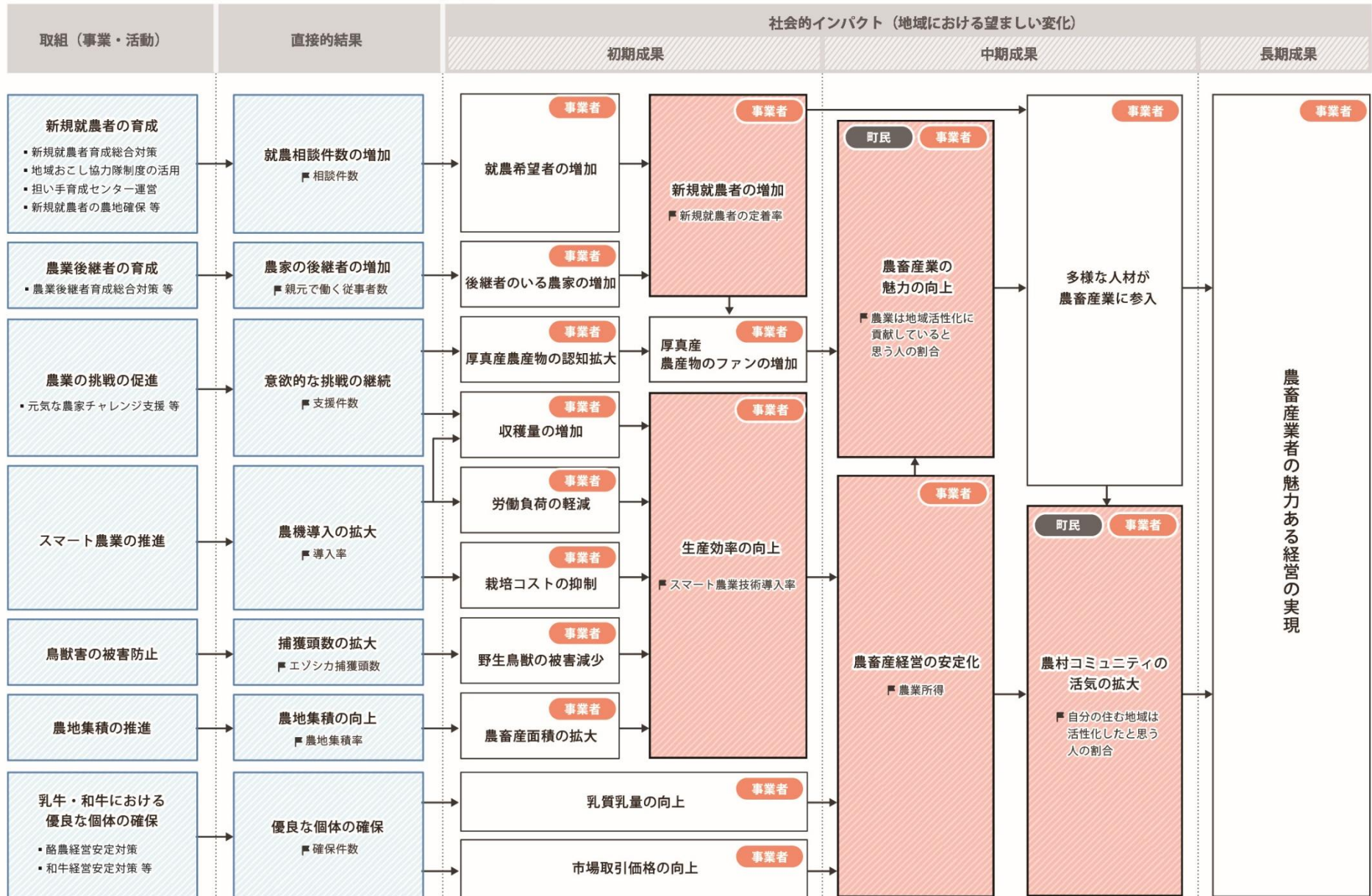
区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	事業者	新規就農者の増加	新規就農者の定着率
	事業者	生産効率の向上	スマート農業技術導入率
中期成果	事業者 町民	農畜産業の魅力の向上	農業は地域活性化に貢献している と思う人の割合
	事業者	農畜産経営の安定化	農業所得
	事業者 町民	農村コミュニティの活気の拡大	自分の住む地域は活性化したと 思う人の割合

8 | 農畜産業の振興

産業経済課

目標

重要な成果



### 3-9. 林業の振興



施策が実現する未来（長期成果）

## 森林の多面的機能の回復と持続可能な林業の実現

### ■ 施策要旨

■ 担当部署：産業経済課

被災森林の再生、林業のスマート化・ICT化、厚真産材のブランド化、担い手確保を推進します。山林の適切な維持管理、鳥獣被害の減少、木材価値と需要の増加により、林業者の収益向上を図ります。森林の多面的機能を回復させ、町民が安心して自然と共存できる環境を整備するとともに、持続可能な林業経営を通じて地域の森林資源を次世代へ継承します。

### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
イベント参加者の増加	参加者数
木材・林業者新規就業者数の増加	従事者数
町産材の流通量増加	流通量
加工品の増加	新規加工品事例
新技術の導入	導入事例
機械・デジタル化の導入拡大	①ICT化・省力化の導入 ②デジタル化率
有害鳥獣の適正化	ヒグマ事故数

### 地域にうまれる変化

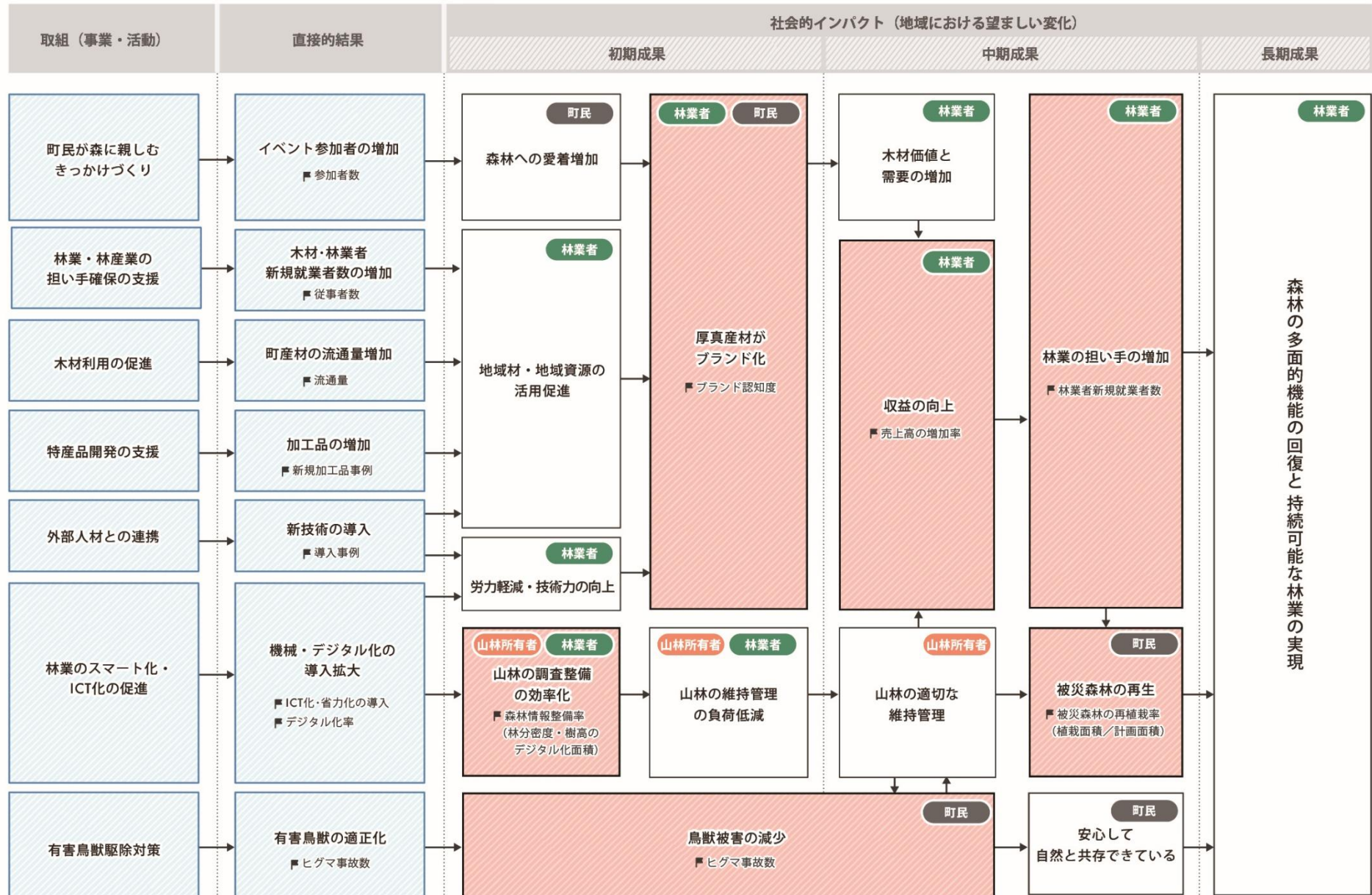
区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	林業者 町民	厚真産材がブランド化	ブランド認知度
	山林所有者 林業者	山林の調査整備の効率化	森林情報整備率 (林分密度・樹高のデジタル化面積)
	町民	鳥獣被害の減少	ヒグマ事故数
中期成果	林業者	収益が向上	売上高の増加率
	林業者	担い手の増加	林業者新規就業者数
	町民	被災森林の再生	被災森林の再植栽率 (植栽面積/計画面積)

9 | 林業の振興

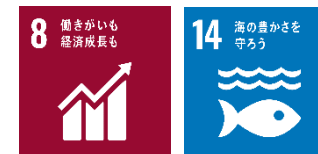
産業経済課

指標

重要な成果



### 3-10. 水産業の振興



施策が実現する未来（長期成果）

## 持続可能で高付加価値な漁業の実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：産業経済課

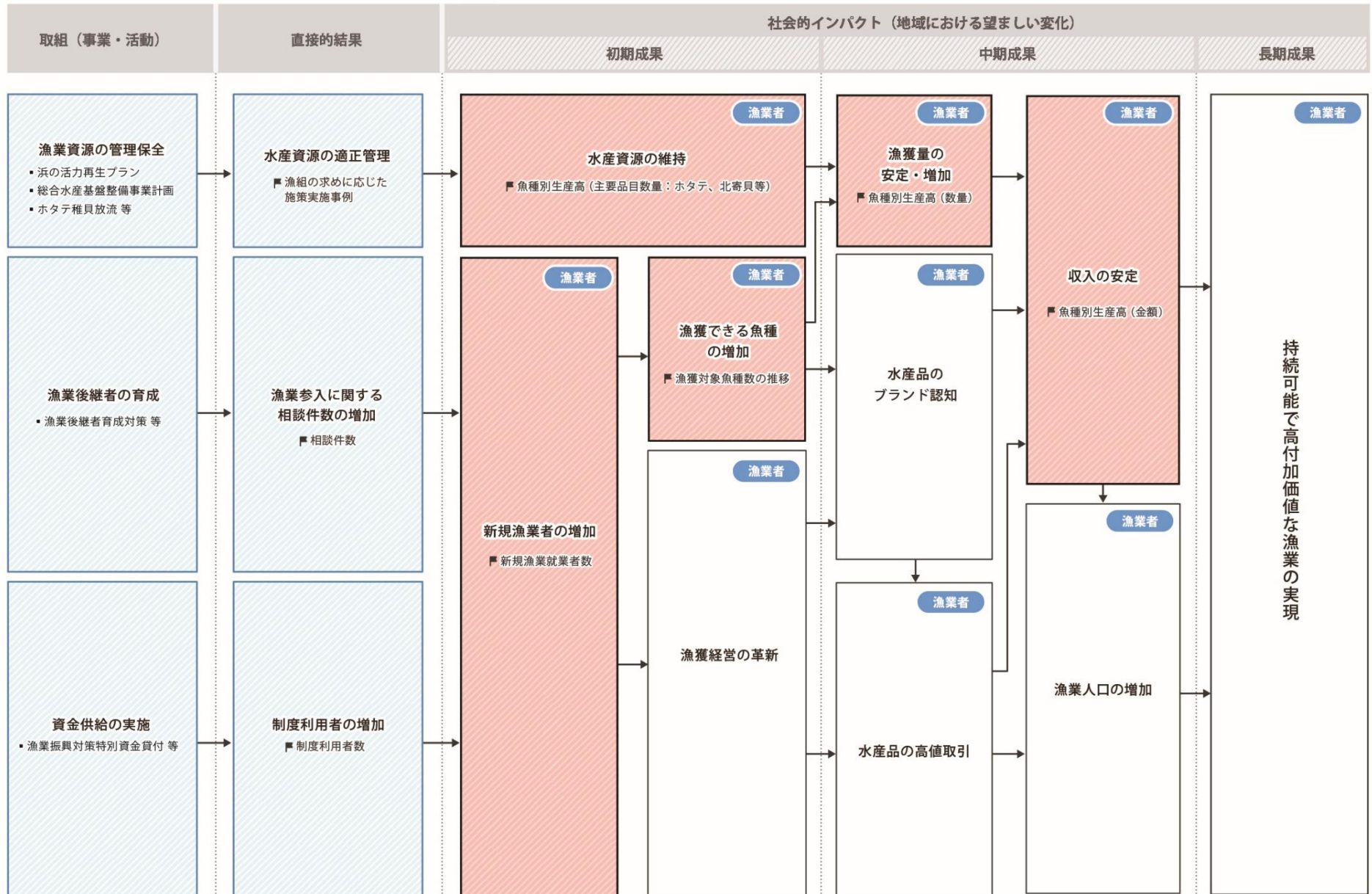
水産資源の適正管理、漁業後継者の育成、資金供給の実施により、漁業人口の増加と漁業者の収入安定を図ります。水産品のブランド化、漁獲量の安定・増加、漁獲経営の革新を通じて、水産品が高値で取引される環境を整備します。持続可能な資源管理と高付加価値化を両立させ、厚真の水産業が次世代に継承される魅力ある産業として発展することを目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
水産資源の適正管理	漁組の求めに応じた施策実施事例
漁業参入に関する相談件数の増加	相談件数
制度利用者の増加	制度利用者数

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	漁業者	水産資源の維持	魚種別生産高 （主要品目数量：ホタテ、北寄貝等）
	漁業者	新規漁業者の増加	新規漁業就業者数
	漁業者	漁獲できる魚種の増加	漁獲対象魚種数の推移
中期成果	漁業者	漁獲量の安定・増加	魚種別生産高（数量）
	漁業者	漁業者の収入の安定	魚種別生産高（金額）



### 3-11. 商工業・観光の振興



施策が実現する未来（長期成果）

## 地域資源を活かした新たな価値の創出による活気あるまちの実現

### ■ 施策要旨

■担当部署：まちづくり推進課、産業経済課

事業承継支援、起業・新事業創出支援、経営支援、観光の活性化により、魅力的な商品・サービス・場所を増やします。町内経済の循環促進、観光客の増加、地域の魅力発信を通じて、商工業者の売上拡大と地域への再投資を促進します。地域資源を活かした新たな価値創出により、不動産の流動性を高め、活気あふれるまちの実現を目指します。

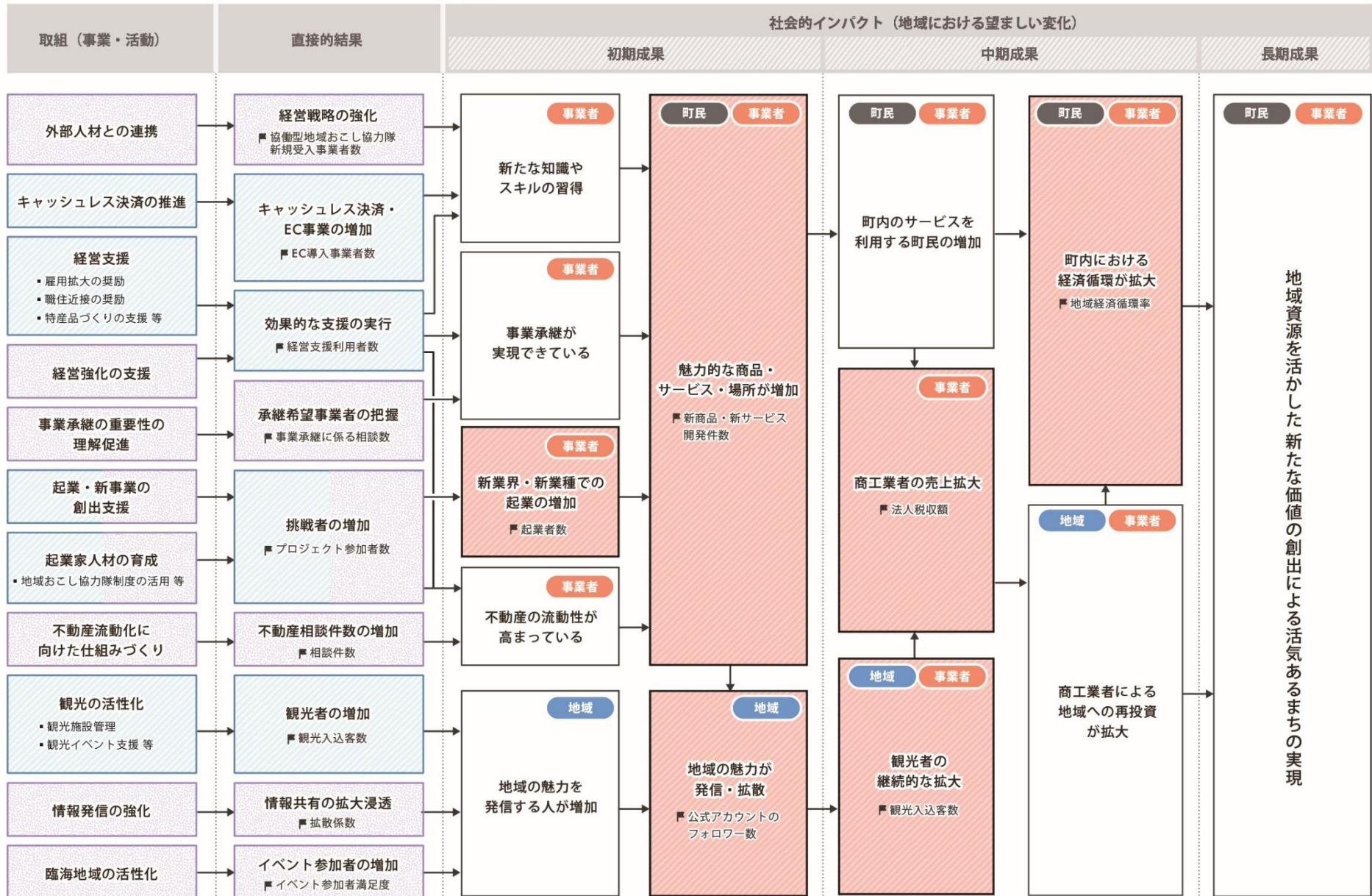
### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
経営戦略の強化	協働型地域おこし協力隊 新規受入事業者数
キャッシュレス決済・ EC事業の増加	EC導入事業者数
効果的な支援の実行	経営支援利用者数
承継希望事業者の把握	事業承継に係る相談数
挑戦者の増加	プロジェクト参加者数
不動産相談件数の増加	相談件数
観光者の増加	観光入込客数
情報共有の拡大浸透	拡散係数
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度



### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	事業者	新業界・新業種での起業の増加	起業者数
	町民 事業者	魅力的な商品・サービス・場所が増加	新商品・新サービス開 発件数
	地域	地域の魅力が発信・拡散	公式アカウントのフ ォロワー数
中期成果	事業者	商工業者の売上が拡大	法人税収額
	事業者 地域	観光者の継続的な拡大	観光入込客数
	町民 事業者	町内における経済循環が拡大	地域経済循環率



地域資源を活かした新たな価値の創出による活気あるまちの実現

### 3-12. 地域経済の活性化



施策が実現する未来（長期成果）

## 豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立

### ■ 施策要旨

■ 担当部署：産業経済課、まちづくり推進課、総務課

多様な事業者同士の交流促進、域外需要の取り込み、域内消費の拡大により、経済的豊かさの実感を高めます。新たな雇用機会の創出、魅力的な商品・サービス・場所の増加、高付加価値の新産業育成を通じて、事業者の事業性拡大と町のファン増加を図ります。地域経済の好循環を生み出し、豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立を目指します。

### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
活躍する人材の増加	地域おこし協力隊定住者数
利用者の増加	オフィス利用率
施設利用の開始	整備率
官民連携の強化	官民連携事業数
挑戦者の増加	起業者数
起業者の売上増加	起業者の売上金額
地域で経営を続ける事業者の増加	商工会会員数
カード利用者の増加	あつまるカード発行数
観光者の増加	観光者数
寄付の増加	企業版ふるさと納税件数

### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	事業者	域内消費の拡大	地域経済循環率
	事業者	多様な事業者による効果的な連携の促進	連携プロジェクト数および多様性
	事業者	高付加価値の新たな産業が増加	産業立地係数（ロケーションクォシエント：LQ）
中期成果	事業者 町民	新たな雇用機会の創出	開業率
	町民	経済的な豊かさを実感	主観的豊かさの度合い

12 | 地域経済の活性化

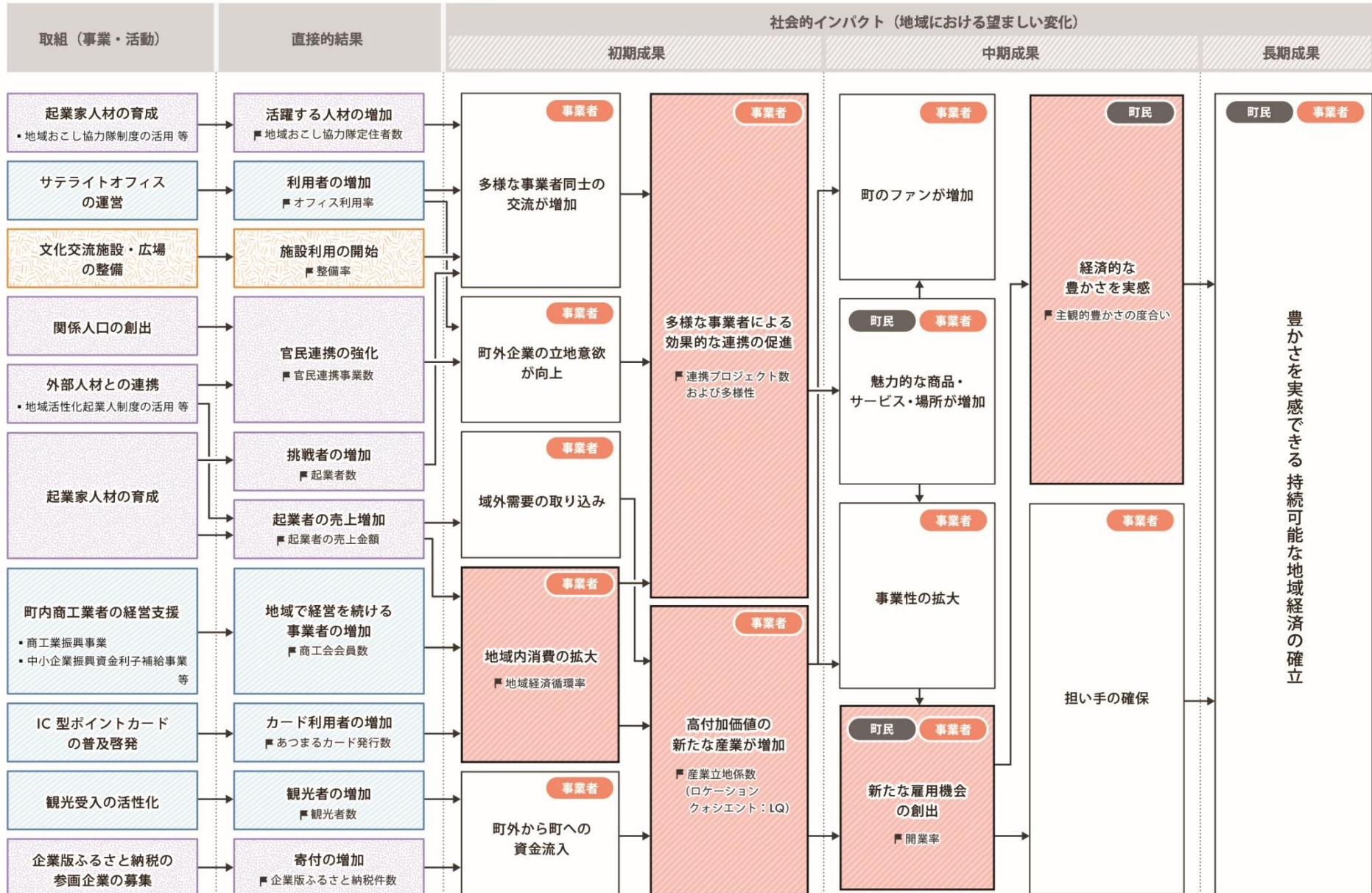
産業経済課

まちづくり推進課

総務課

指標

重要な成果



### 3-13. 都市機能の最適化



施策が実現する未来（長期成果）

## 町民にとって安心・安全・快適で楽しい環境の実現

### ■ 施策要旨

■ 担当部署：建設課、総務課、まちづくり推進課

公共施設の総合管理、公園管理、地域公共交通対策、DXの推進、ユニバーサルデザイン化により、快適な都市機能を提供します。技術職員の確保・育成、デジタル化の推進、公共施設・公共交通の最適化を通じて、持続可能で効率的なまちづくりを進めます。すべての町民が安心・安全・快適に暮らし、楽しめる環境を整備し、生活満足度の向上を目指します。

### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
施設の再編	再編の進捗率
環境の改善	予防保全の実施件数 水道管の更新化率 下水道管の更新化率
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率
技術職志望者へのアプローチ増加	リクルート活動実績数
デジタル化の拡大	デジタル技術導入事例 AI活用事業数
情報通信環境の整備	衛星インターネット通信環境の整備件数
ユニバーサルデザイン(UD)の拡大	公共施設・道路公園のUD整備率

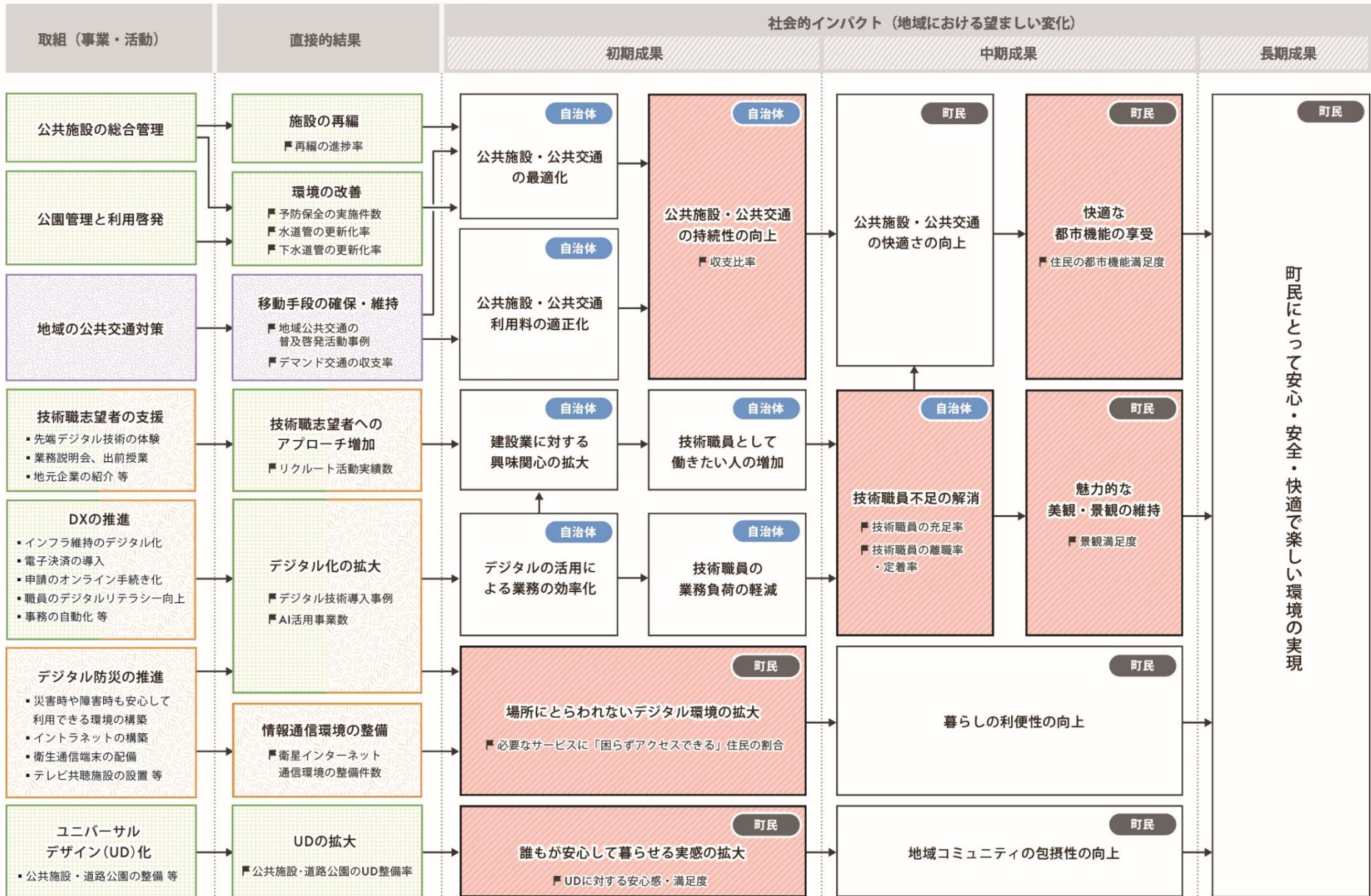
### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	自治体	公共施設・公共交通の持続性の向上	収支比率
	町民	場所にとらわれないデジタル環境の拡大	必要なサービスに「困らずアクセスできる」住民の割合
	町民	誰もが安心して暮らせる実感の拡大	ユニバーサルデザインに対する安心感・満足度
中期成果	町民	技術職員不足の解消	住民の都市機能満足度
	自治体	快適な都市機能の享受	技術職員の充足率技術職員の離職率・定着率
	町民	魅力的な美観・景観の維持	景観満足度

13 | 都市機能の最適化

建設課 総務課 まちづくり推進課

指標 重要な成果



### 3-14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり



施策が実現する未来（長期成果）

## 新たな価値を創造するまちに優しい持続可能な循環型社会の実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：まちづくり推進課、住民課、建設課

環境保全の啓発、ゼロカーボンの推進、堆肥化の促進、官民連携の推進により、自然を大切にする生活習慣を定着させます。自然資本を活かした商品・サービスの増加、循環型事業の創出、遊休建物の再利用促進を通じて、豊かな里山や生物の維持・回復を図ります。循環型の暮らしをまちの風景とし、新たな価値を創造する持続可能な社会の実現を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
自然資本を活かす連携事業の増加	連携事業数
取り組む意義の認知	生ごみ堆肥化容器・処理機購入補助事業活用件数
正しい分別の周知	転入者配布到達率
意見交換の増加	環境会議開催回数
制度利用者の増加	制度利用者数

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	企業 町民	遊休建物の再利用が促進	再生された遊休建物の件数
	企業 町民	自然資本を活かした商品サービスの増加	地域資源を活用した新商品・新サービスの件数
	町民	環境保全・活用への関心が増加	環境保全への関心度
中期成果	町民	自然を大切にする生活習慣の持続	町民1人1日あたりのごみ排出量
	町民	豊かな里山や生物の維持・回復	無立木地の面積

14 | 人と自然にやさしい循環型社会づくり

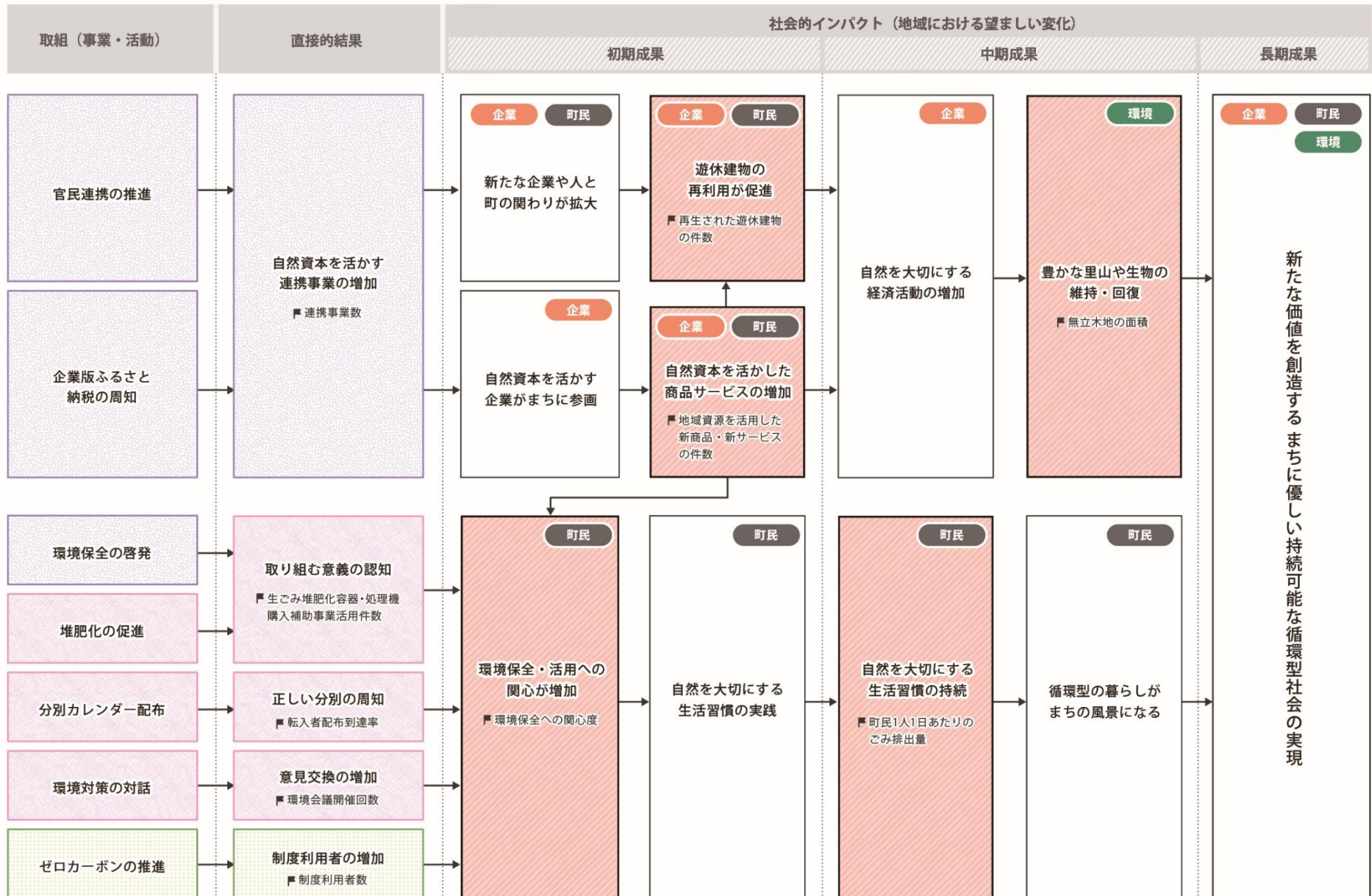
まちづくり推進課

住民課

建設課

目標

重要な成果



### 3-15. 住まい方の充実・定住促進

施策が実現する未来（長期成果）

## 誰もが満足できるきれいで楽しい住環境の実現

#### ■施策要旨

■担当部署：建設課、まちづくり推進課

公的賃貸住宅の再編と集約化、遊休空間の利活用促進、土地区画管理の適正化、住宅管理の適正化により、町民の暮らしやすさを向上させます。まちを楽しめるお店や施設の増加、多様なコミュニティの形成、建築・不動産の専門人材の確保を通じて、地域への居留意欲を高めます。誰もが満足できるきれいで楽しい住環境を整備し、定住人口の増加を目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
制度利用者の増加	①制度利用者数 ②簡易水道普及率 ③下水道水洗化率
掲載物件の増加	物件数
住宅状況の把握	空き家件数
採用情報の認知向上	リクルート活動実績数
移住相談者数の増加	相談者数
応募者数の増加	地域おこし協力隊応募者数
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数
公営住宅等の適正化	公営住宅の用途廃止数

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	自治体	建築・不動産の専門人材が増加	専門人材誘致数
	自治体 町民	遊休空間の利活用が促進	利活用ポテンシャル指数
	移住希望者	地域への居留意欲が向上	移住候補地に対するイメージ評価
中期成果	町民	まちを楽しめるお店や施設が増加	人口 1,000 人当たりの飲食・小売・サービス施設数
	町民	公的賃貸住宅が効果的に活用	公営住宅入居率
	町民	町民が暮らしやすさを感じられている	主観的ウェルビーイングスコア

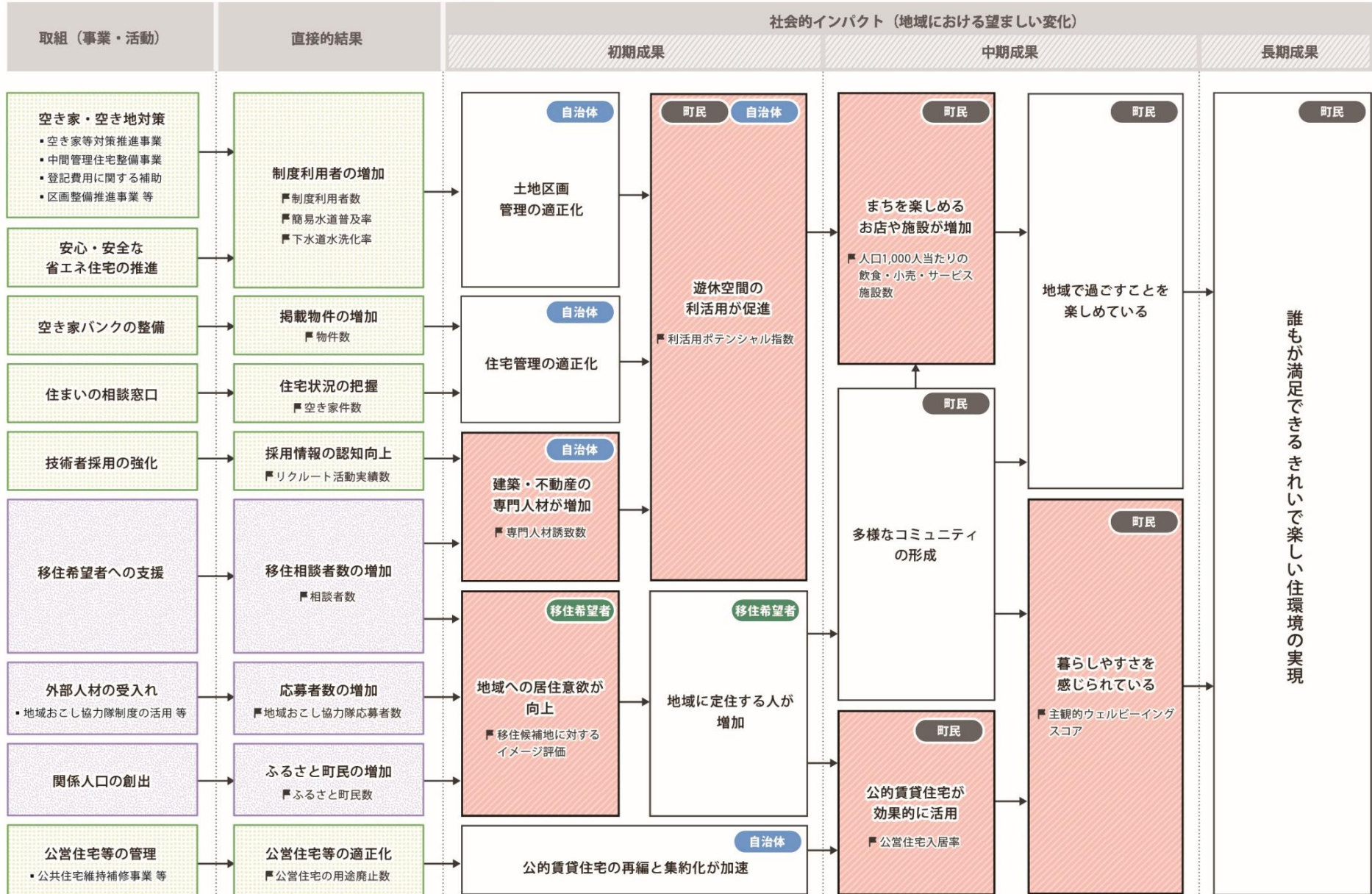
15 | 住まい方の充実・定住促進

建設課

まちづくり推進課

指標

重要な成果



### 3-16. 防災・危機管理能力の強化



施策が実現する未来（長期成果）

## 一人ひとりが安心できる「災害に強いまち・ひとづくり」の実現

#### ■施策要旨

■担当部署：総務課

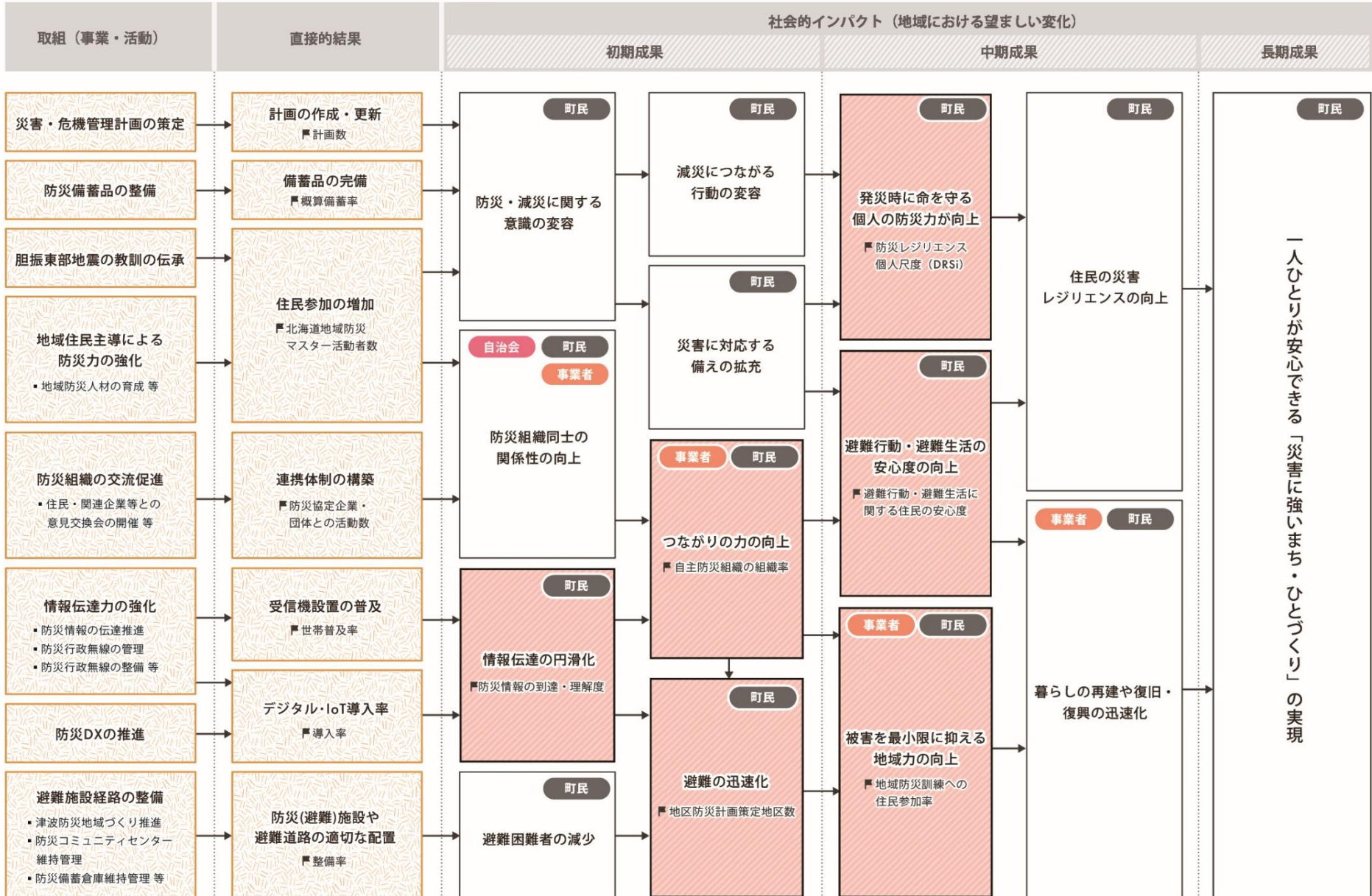
災害・危機管理計画の策定、防災備蓄品の整備、地域住民主導による防災力の強化、情報伝達力の強化、避難施設・経路の整備により、個人の防災力と地域力を向上させます。防災DXの推進、防災組織の交流促進を通じて、住民の災害レジリエンスを高め、暮らしの再建や復旧・復興の迅速化を図り、一人ひとりが安心できる災害に強いまち・ひとづくりを目指します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
計画の作成・更新	計画数
備蓄品の完備	概算備蓄率
住民参加の増加	北海道地域防災マスター活動者数
連携体制の構築	防災協定企業・団体との活動数
受信機設置の普及	世帯普及率
デジタル・IoT導入率	導入率
防災（避難）施設や避難道路の適切な配置	整備率

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	町民	情報伝達の円滑化	防災情報の到達・理解度
	事業者 町民	つながりの力の向上	自主防災組織の組織率
	町民	避難の迅速化	地区防災計画策定地区数
中期成果	町民	発災時に命を守る個人の防災力が向上	防災レジリエンス個人尺度（DRSi）
	町民	避難行動・避難生活の安心度の向上	避難行動・避難生活に関する住民の安心度
	事業者 町民	被害を最小限に抑える地域力の向上	地域防災訓練への住民参加率



### 3-17. 町民共創による安心・安全なまちづくり



施策が実現する未来（長期成果）

## 住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：総務課、まちづくり推進課、生涯学習課（教育委員会）、住民課

自治会等の活動推進、住民活動の推進、ふるさと教育の推進、文化交流施設・広場の整備、学校運営協議会の運営により、地域住民同士のつながりを拡大します。地域課題解決の主体育成、共助意欲の向上、移動手段の確保を通じて、地域に暮らす人々の精神的豊かさとまちへの愛着を高めます。住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現を目指します。

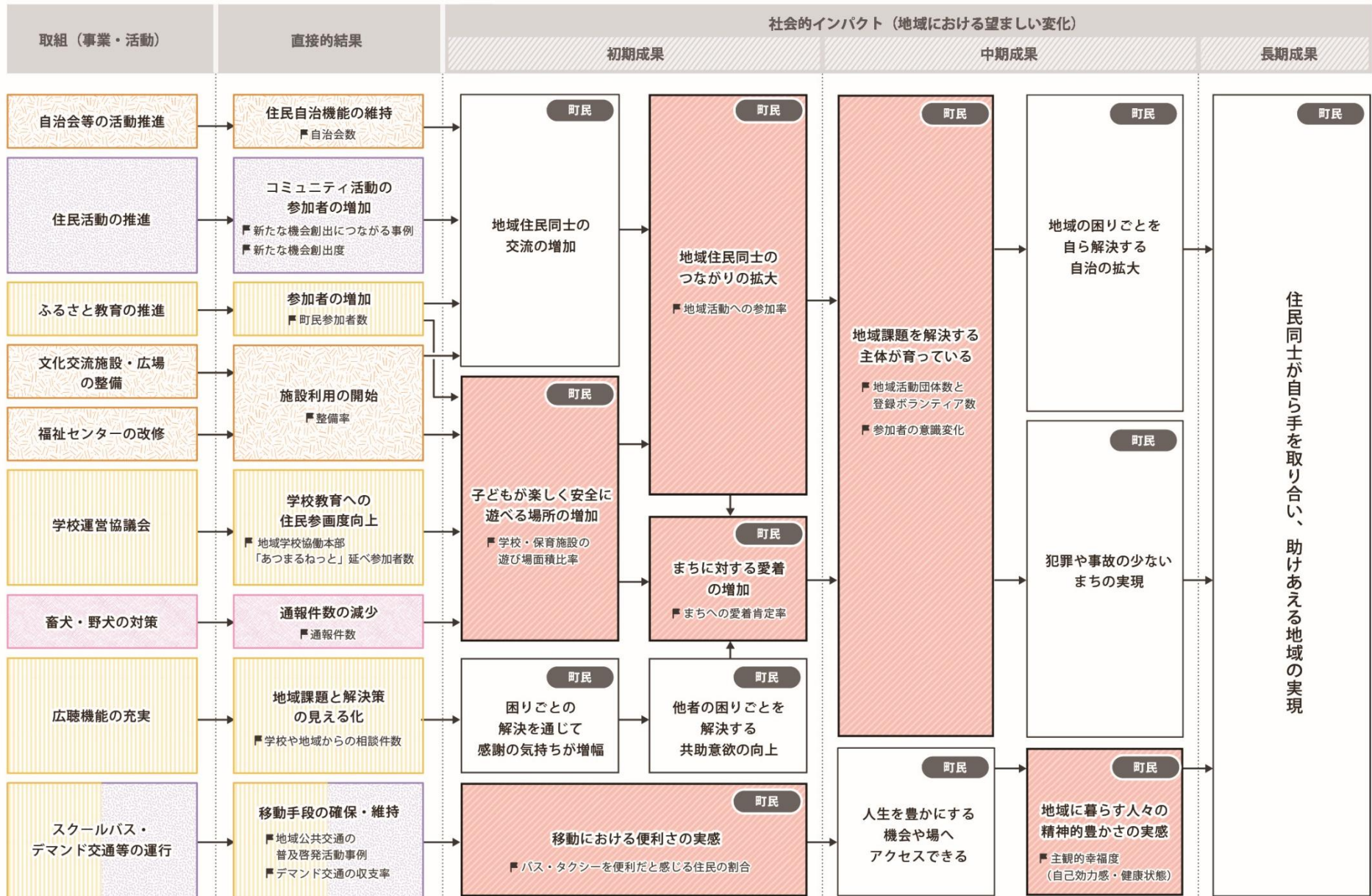
#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
住民自治機能の維持	自治会数
コミュニティ活動の参加者の増加	新たな機会創出につながる事例 新たな機会創出度
参加者の増加	町民参加者数
施設利用の開始	整備率
学校教育への住民参画度向上	地域学校協働本部「あつまるねっと」への延べ参加者数
通報件数の減少	通報件数
地域課題と解決策の見える化	学校や地域からの相談件数
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	町民	子どもが楽しく安全に遊べる場所の増加	学校・保育施設の遊び場面積比率
	町民	地域住民同士のつながりの拡大	地域活動への参加率
	町民	まちに対する愛着の増加	まちへの愛着肯定率
	町民	移動における便利さの実感	バス・タクシーを便利だと感じる住民の割合
中期成果	町民	地域課題を解決する主体が育っている	地域活動団体数と登録ボランティア数 参加者の意識変化
	町民	地域に暮らす人々の精神的豊かさの実感	主観的幸福度（自己効力感・健康状態）

17 | 町民共創による安心・安全なまちづくり



### 3-18. 健全な行財政運営への転換

施策が実現する未来（長期成果）

## 暮らしを守る事業と組織の健全運営の実現

#### ■ 施策要旨

■ 担当部署：まちづくり推進課、総務課

総合計画の策定・運用、定期的な情報発信、施策取組状況の開示、成長を促す人材育成、ふるさと納税の効果的な活用により、限られた資源で効果的な事業を推進します。職員の働きがい向上、業務量の適正化、経常収支比率の適切な維持を通じて、ヒト・モノ・カネ・情報の利活用を最大化し、暮らしを守る事業と組織の健全運営を実現します。

#### 取組からうまれる結果

直接的結果	結果指標
町の取り組み認知度の増加	町ウェブサイトPV
ふるさと納税額の増加	ふるさと納税額
対話の機会増加	二点開示達成率
総合計画の運用	総合計画に係る職員研修実施回数
地方債残高の抑制	地方債残高（一般会計）
職員の意識・行動の変容	職員研修の満足度 職員の意識・行動変容度
新庁舎の完成	整備率

#### 地域にうまれる変化

区分	誰が・何が	どうなる（望ましい状態）	成果指標
初期成果	自治体	行財政運営に関する住民意見の把握	行政運営への信頼度
	自治体	事業評価に基づいた柔軟な事業改善の実現	KPI 達成率および方向性の適合度
中期成果	自治体	経常収支比率を適切に維持	経常収支比率（Current Balance Ratio） 実質公債費比率（3ヵ年平均）
	行政職員	職員の心身の健康を維持	ストレスチェック高ストレス者率 年次有給休暇取得率
	自治体	人材が集う魅力的な職場になっている	離職率 職員採用後3年定着率
	行政職員	職員が働きがいを持っている	職員エンゲージメントスコア 働きがい指標

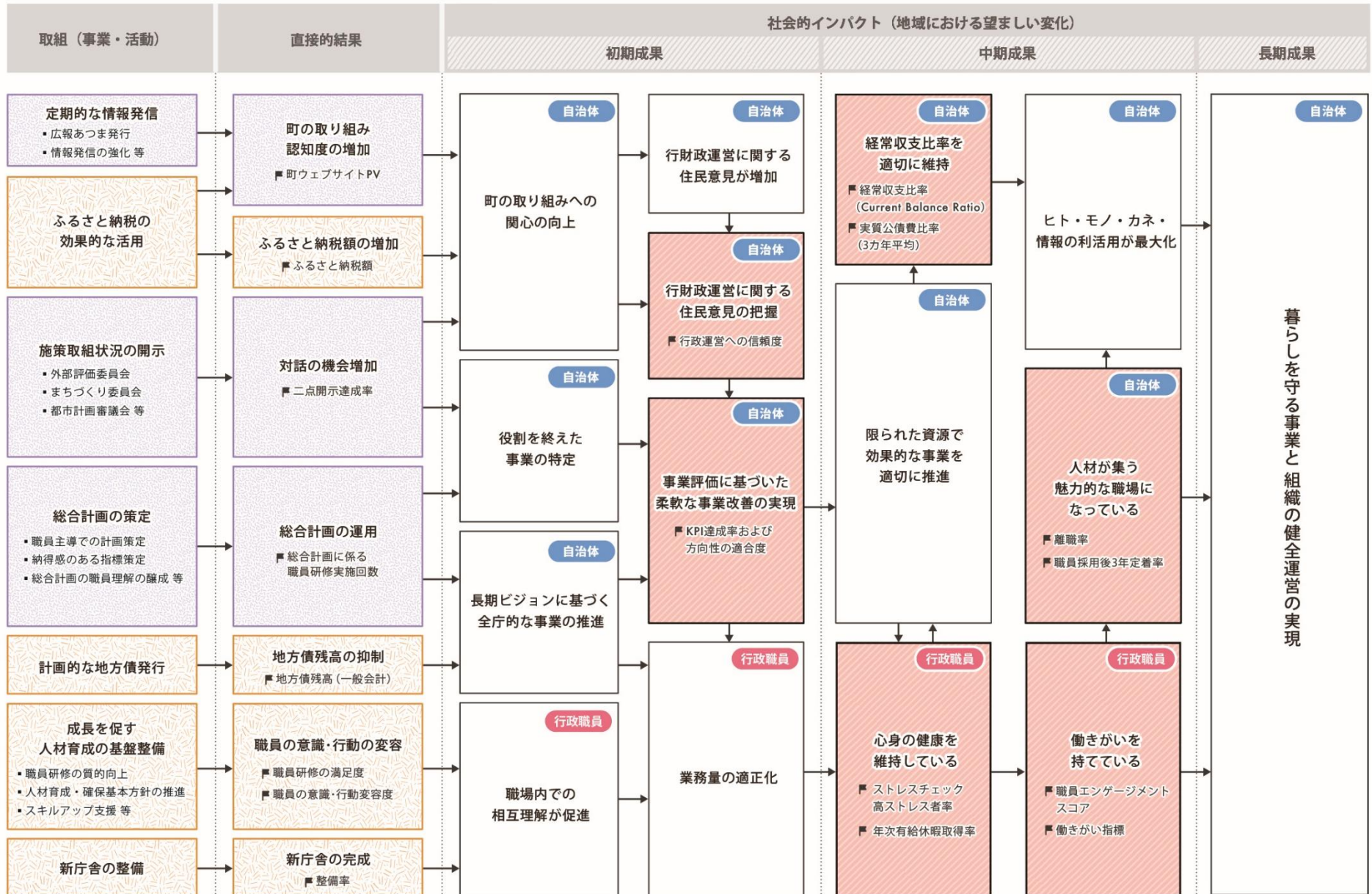
18 | 健全な行財政運営への転換

まちづくり推進課

総務課

目標

重要な成果



## 第4章 18 施策の結果指標と社会的インパクト一覧

ここでは、第3章の基本計画（ロジックモデル集）で記載されていたこの施策が実現する未来（社会的インパクトの長期成果）と結果指標を一覧化しています。

### 4-1. 子ども・子育て支援の充実

施策が実現する未来（長期成果）

#### 地域ぐるみで安心して子どもを育てられるまちの実現

##### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
資格取得者の増加	保育士資格取得者数	0	1人/年
情報共有の拡大浸透	子育て情報発信回数 ①HP更新回数 ②情報発信の回数	—	①12回/年 ②月に1回
職場環境の向上	研修満足度/職員満足度 ①研修後のアンケート収集 ②離職率・休暇取得率・ストレスチェック職場指数	—	①参加者の80% ②離職率3%、休暇取得率70%以上、ストレスチェック高ストレス者判定10%
制度の利用者の増加	子育て支援に係る制度利用者数	対象世帯の8割	対象世帯の9割
主体的な遊び場の充実	利用者実績数（属性の把握） ①利用者実績数 ②利用参加者へのアンケート調査（プレーパーク）	①対象世帯の5割 ②人数のみの把握	①対象世帯の7割 ②8回/年

## 4-2. 教育・多様な学びの充実

施策が実現する未来（長期成果）

### 誰もが学びの主人公となり、未来をともに生きていける地域の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
相談者の増加	①発達支援センターへの相談者数 ②多様な学びに対する相談 (相談窓口受理件数、100の学び場プロジェクト 「あつひやく」参加者数)	—	①3 ②430（町民の10%）
安心安全な学習環境の充実	①いじめ認知件数 ②重大事態件数 ③重大事故件数	①いじめ認知件数 46 件（小 27 中 19）（R6） ②重大事態件数 0 件 ③重大事故件数 0 件	0 又は少なくとも前年同水準以下
教育水準の向上	教員研修の開催数	—	年間 6 回（個人）
制度の利用者の増加	就学援助、育英資金など学びチャレンジ補助制度に係る制度利用者数	制度を 1 回以上利用した児童生徒数（R6） 小 26 人（11%） 中 17 人（14%）	児童生徒年 1 回以上の制度利用
参加者の増加	あつま未来カレッジ、ふるさと教育、100の学びプロジェクト「あつひやく」等の町民参加者数	29 人/1 回（R7 平均値）	40 人/1 回
主体的な居場所の充実	居場所の有無	—	70%

## 4-3. 歴史と文化の継承・スポーツの振興

施策が実現する未来（長期成果）

### 誰もが集い、つながり、楽しみ、いきがいを感じる暮らしの実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
学校保健体育の充実	体力・運動能力調査結果	男子は全国平均値以上 女子は全国平均値以下	全国平均値以上
見学者・来場者の増加	町内・外参加者数 (軽舞遺跡調査整理事務所における見学者、来場者)	900 人程度	1200 人/年
文化財ガイドの増加	文化財ガイドの数	5 人	10 人
クラブ参加者の増加	登録者数	—	小中学生 70%
施設利用の開始	整備率	0 %	100%

#### 4-4. 官民学連携による人材の確保・育成

施策が実現する未来（長期成果）

### 誰もが町内外の人の挑戦を応援できる地域の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
活用事例の増加	起業化支援事業補助金・経営強化促進補助金（新分野拡大事業）活用実績数・内容	起業化支援事業補助金 7 件（R6）	起業化支援事業補助金 3 件
挑戦者の増加	起業者数	R1 から R6 の累計 27 件	5 年累計数 25 件
大学連携事業の増加	連携事業数 ①研究型地域おこし協力隊数 ②包括連携協定大学との連携事業数	—	①1 人/年 ②5 年累計数 10 件
活躍する人材の増加	地域おこし協力隊定住者数 地域活性化起業人受入人数	R6 年委嘱者数 6 人（内新規委嘱者 2 人）	5 年累計数 20 人
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数	—	5 年後 200 人
参加者の増加	厚真未来カレッジ町民参加者数	29 人/回（R7 平均値）	40 人/回
観光者の増加	観光者数	150,885 人（R6）	190,000 人

情報共有の拡大浸透	閲覧者数・発信者	1回/週	1回/週
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度	—	ダブル同意率 75%
周辺地域の整備完了	整備率	0	100

#### 4-5. 高齢者福祉・介護の充実

施策が実現する未来（長期成果）

### 高齢者が安心して暮らせる地域の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	国保連合会給付に係る受給者数	265	270
参加者の増加	高齢者福祉・介護に係るイベント参加者数 ①一般介護予防事業 ②夏季・冬季栄養教室、ゲートキーパー・こころの講演会	①138 ②10	①300 ②現状値 5%増
相談者の増加	地域包括支援に係る相談者数	106	150
サービスや場所の利用者の増加	高齢者福祉・介護に係るサービス・支援等利用者数	6710	6800
担い手の増加	ボランティア数	302	450

#### 4-6. 社会福祉・障がい福祉の充実

施策が実現する未来（長期成果）

### どんな障がい・特性があっても認め支え合うまちの実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
福祉人材基盤の形成	採用人数	年 12 人	年 10 人
個性に応じた学習環境の充実	多様な学びの事例	—	全国平均と同等を目指す

認知度の増加	相談先認知度	—	50%
参加者の増加	社会福祉・障がい福祉に係るイベントの参加者数 (夏季・冬季栄養教室、ゲートキーパー・こころの講演会)	10	現状値 5%増
利用者の増加	①まちなか交流館事業の利用者数 ②発達支援センター事業の利用回数	①12名：1,395回 ②14名：221回	①14名：1,682回 ②16名：375回
制度利用者の増加	障がい者支援制度の利用者数	—	対象児の8割
被支援者の増加	障がい者相談支援事業に係る相談支援件数	136件	271件
利用者の増加	①人工透析患者等送迎サービス事業利用者数・利用日数 ②通院交通費助成人数・助成延べ件数	①6名：440回 ②25名：323回	①6名：755回 ②25名：646件
バリアフリーの増加	工事完了率	小学校完了	R8 全校バリアフリー化改修工事完了

#### 4-7. 保健・医療の充実

施策が実現する未来（長期成果）

### 健やかな心のふるさとづくりを通じた健康長寿のまちの実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
参加者の増加	夏季・冬季栄養教室、ゲートキーパー・こころの講演会参加者数	10	現状値 5%増
検診初回受診者の増加	検診初回受診率	11%	現状値 3%増
保健医療の連携維持	各種健診・予防接種等の事業における連携実施数	64%	現状維持
かかりつけ医として利用する町民の増加	健康状態不明者の人数	15人	13人

#### 4-8. 農畜産業の振興

施策が実現する未来（長期成果）

### 農畜産業者の魅力ある経営の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
就農相談件数の増加	相談件数	11名 (R6)	12名/年
農家の後継者の増加	親元で働く従事者数	2名 (R7)	3名/年
意欲的な挑戦の継続	支援件数	1件 (R7)	1件/年
農機導入の拡大	導入率	60% (R6)	80% (中心的経営体の経営面積に対して)
捕獲頭数の拡大	エゾシカ捕獲頭数	1,399頭 (R6)	1,700頭/年
農地集積の向上	農地集積率	90%	95%
優良な個体の確保	確保件数	70%	70%

#### 4-9. 林業の振興

施策が実現する未来（長期成果）

### 森林の多面的機能の回復と持続可能な林業の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
イベント参加者の増加	植樹祭参加者数	200人	現状維持
木材・林業者新規就業者数の増加	従事者数	17	20
町産材の流通量増加	流通量	—	2025年度から1.5倍
加工品の増加	新規加工品事例	—	— (定性評価)
新技術の導入	導入事例	—	— (定性評価)
機械・デジタル化の導入拡大	①ICT化・省力化の導入	①—	①1台
	②デジタル化率：経営強化促進補助金(ICT)化の実績	②1件 (R7)	②1件/5年
有害鳥獣の適正化	ヒグマ事故数	0頭	現状維持

#### 4-10. 水産業の振興

施策が実現する未来（長期成果）

### 持続可能で高付加価値な漁業の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
水産資源の適正管理	漁組の求めに応じた施策実施事例	—	—（定性評価）
漁業参入に関する相談件数の増加	相談件数	1件（R6年度）	年間1件程度
制度利用者の増加	漁業振興対策特別貸付金利用者数	貸付件数8件 金額12,780千円（R5）	年間5件

#### 4-11. 商工業・観光の振興

施策が実現する未来（長期成果）

### 地域資源を活かした新たな価値の創出による活気あるまちの実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
経営戦略の強化	協働型地域おこし協力隊新規受入事業者数	—	単年3件
キャッシュレス決済・EC事業の増加	EC導入事業者数	1件（EC実績）（R6年度）	年間1件
効果的な支援の実行	経営支援利用者数 ①経営強化促進補助金、②雇用拡大奨励金、③職住近接奨励金の実績	①7件、②1人、③2人（R6）	年間3件
承継希望事業者の把握	事業承継に係る相談数	—	—
挑戦者の増加	プロジェクト参加者数 ①起業化支援事業補助金の実績 ②起業家人材育成支援事業の総参加者数	①7件（R6） ②—	①年間3件 ②単年延べ人数60人
不動産相談件数の増加	空き家バンク相談件数、空き家バンク掲載数	—	単年新規相談数と単年

			掲載数合計 8 件
観光者の増加	観光入込客数	150,885 人 (R6)	190,000 人
情報共有の拡大浸透	拡散係数 (四半期の総シェア数 ÷ 四半期の総リーチ人数) × 1000	0.3	14
イベント参加者の増加	イベント参加者満足度 (魅力度+再訪意向)	—	ダブル同意率 75%

#### 4-12. 地域経済の活性化

施策が実現する未来 (長期成果)

### 豊かさを実感できる持続可能な地域経済の確立

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
活躍する人材の増加	地域おこし協力隊定住者数	—	70%
利用者の増加	サテライトオフィス利用率	86% (R6)	80%
施設利用の開始	整備率	0	100
官民連携の強化	官民連携事業数	7 件 (R6)	年間 5 件維持
挑戦者の増加	起業者数	R1 から R6 の累計 27 件	5 年累計数 25 件
起業者の売上増加	起業者の売上金額	—	スタートから 5 年後に 4 億円増加
地域で経営を続ける事業者の増加	商工会会員数	153 事業者 (R6 年度末)	170 事業者 (目標年度)
カード利用者の増加	あつまるカード発行数	5,154 枚 (R6 年度末)	年間新規 50 枚
観光者の増加	観光者数	150,885 人 (R6)	190,000 人
寄付の増加	企業版ふるさと納税件数	5 件	年平均 10 件

#### 4-13. 都市機能の最適化

施策が実現する未来 (長期成果)

### 町民にとって安心・安全・快適で楽しい環境の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
施設の再編	再編の進捗率	87 橋	集約化・撤去 1 橋
環境の改善	予防保全の実施件数 ①公園毎の点検回数 ②草刈回数等	①年 1 回 ②年 3 回程度	①年 1 回 ②年 4 回
	①簡易水道事業：水道管の更新化率 ②下水道事業：下水道管の更新化率	①水道管総延長 208km ②下水道管総延長 19km	①水道管 0.5%更新/年 ②下水道管 0.2%更新/年
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率	4.33%	定性的な事例の収集及び 4.0%の維持（4.0%を下回らない）
技術職志望者へのアプローチ増加	リクルート活動実績数	—	3 回/年
デジタル化の拡大	デジタル技術導入事例、AI 活用事業数 ①デジタル技術導入事例及び、委託先事業者の AI 活用事例 ②各種申請のオンライン申請導入 ③役場内のデジタル技術活用事例及び AI 活用事例数、及び、 町内のデジタル技術活用や AI 活用に資する事業数	①試験採用 2 事業 ②— ③—	① 5 件/10 年 ②80% ③2 件/年、計 20 件
情報通信環境の整備	避難所や防災関連施設における衛星インターネット通信環境 の整備件数	—	1 件/年、計 10 件
ユニバーサルデザイン(UD)の拡大	公共施設・道路公園の UD 整備率	50%	バリアフリー化 70% 整備率 100%

4-14. 人と自然にやさしい循環型社会づくり

施策が実現する未来（長期成果）

新たな価値を創造するまちに優しい持続可能な循環型社会の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
自然資本を活かす連携事業の増加	連携事業数 (官民連携プロジェクト数、自然資本活用事業に対する企業版ふるさと納税件数)	—	5年累計8件
取り組む意義の認知	生ごみ堆肥化容器・処理機購入補助事業活用件数	5件	予算計上時の件数
正しい分別の周知	分別カレンダー転入者配布到達率	100%	現状維持
意見交換の増加	環境会議開催回数	年1回	各会議年1回以上
制度利用者の増加	ゼロカーボン補助金利用者数	約120件	500件(R17年度の累積目標件数)

#### 4-15. 住まい方の充実・定住促進

施策が実現する未来（長期成果）

### 誰もが満足できるきれいで楽しい住環境の実現

■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
制度利用者の増加	①制度利用者数 ②簡易水道事業：普及率 ③公共下水道事業・浄化槽事業：水洗化率	①年間平均2件 ②簡易水道事業：95.44% ③公共下水道事業：99.26% 浄化槽事業：78.54%	①年間2件 ②簡易水道事業：97% ③公共下水道事業：99.4% 浄化槽事業：85%
掲載物件の増加	空き家バンク物件数	—	50件
住宅状況の把握	空き家件数	162件	120件
採用情報の認知向上	リクルート活動実績数	—	町内で1人増/年
移住相談者数の増加	相談者数	約15件	単年20件
応募者数の増加	地域おこし協力隊応募者数	約15件	単年20件
ふるさと町民の増加	ふるさと町民数	14人	200人
公営住宅等の適正化	公営住宅の用途廃止数	22戸	58戸

#### 4-16. 防災・危機管理能力の強化

施策が実現する未来（長期成果）

### 一人ひとりが安心できる「災害に強いまち・ひとづくり」の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
計画の作成・更新	災害・危機管理計画数	—	100%
備蓄品の完備	概算備蓄率	55.5%	70%以上
住民参加の増加	北海道地域防災マスター活動者数	6人（R6）	40人/年以上 ※概ね年4回開催
連携体制の構築	防災協定企業・団体との活動数	—	10回/年以上
受信機設置の普及	世帯普及率	84.4%	90%以上
デジタル・IoT導入率	導入率	—	1件/年、計10件以上
防災（避難）施設や避難道路の適切な配置	整備率	—	100%

#### 4-17. 町民共創による安心・安全なまちづくり

施策が実現する未来（長期成果）

### 住民同士が自ら手を取り合い、助けあえる地域の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
住民自治機能の維持	自治会数	34	34
コミュニティ活動の参加者の増加	新たな機会創出につながる事例 新たな機会創出度	—	満足 Top2 率: 88%以上 交流成立率: 65%以上 継続意向率: 82%以上 ダブル同意率: 55%以上
参加者の増加	厚真未来カレッジ参加者数	29人/回	40人/回
施設利用の開始	整備率	0	100

学校教育への住民参画度向上	地域学校協働本部「あつまるねっと」への延べ参加者数	563人 (R7)	500人/年
通報件数の減少	畜犬・野犬に係る通報件数	—	10件未満
地域課題と解決策の見える化	学校や地域からの相談件数	—	20件/年
移動手段の確保・維持	地域公共交通の普及啓発活動事例 デマンド交通の収支率	4.33%	定性的な事例の収集 4.0%の維持 (4.0%を下回らない)

#### 4-18. 健全な行財政運営への転換

施策が実現する未来（長期成果）

### 暮らしを守る事業と組織の健全運営の実現

#### ■結果指標

直接的結果	結果指標	現状値	目標値
町の取り組み認知度の増加	町ウェブサイトPV	—	60%
ふるさと納税額の増加	ふるさと納税額	620,758千円 (R6 決算)	1,000,000千円
対話の機会増加	二点開示達成率	—	100%
総合計画の運用	総合計画に係る職員研修実施回数	—	1回/年
地方債残高の抑制	地方債残高（一般会計）	12,020,395千円 (R6 決算)	8,000,000千円
職員の意識・行動の変容	職員研修の満足度アンケート 職員の意識・行動変容度	—	自分の行動や意識が変容したと自覚する職員の割合 30% 周囲の行動が変容したと感じる職員の割合 20% 自由記述欄に研修要望を記載する職員の割合 10%
新庁舎の完成	整備率	0%	100%



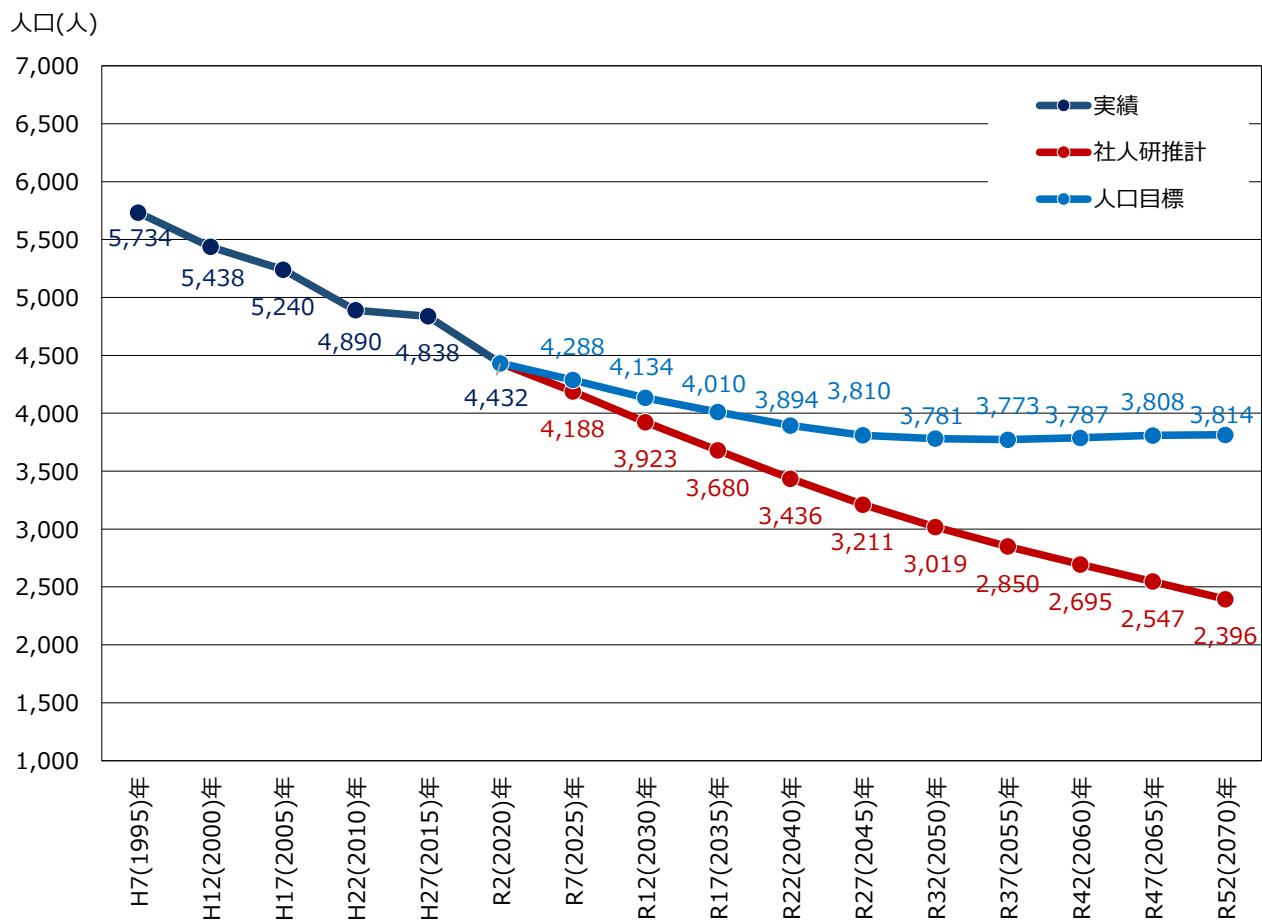
# 第4編 付 録

# 第4編 付 録

## 第1章 厚真町の人口の見通し

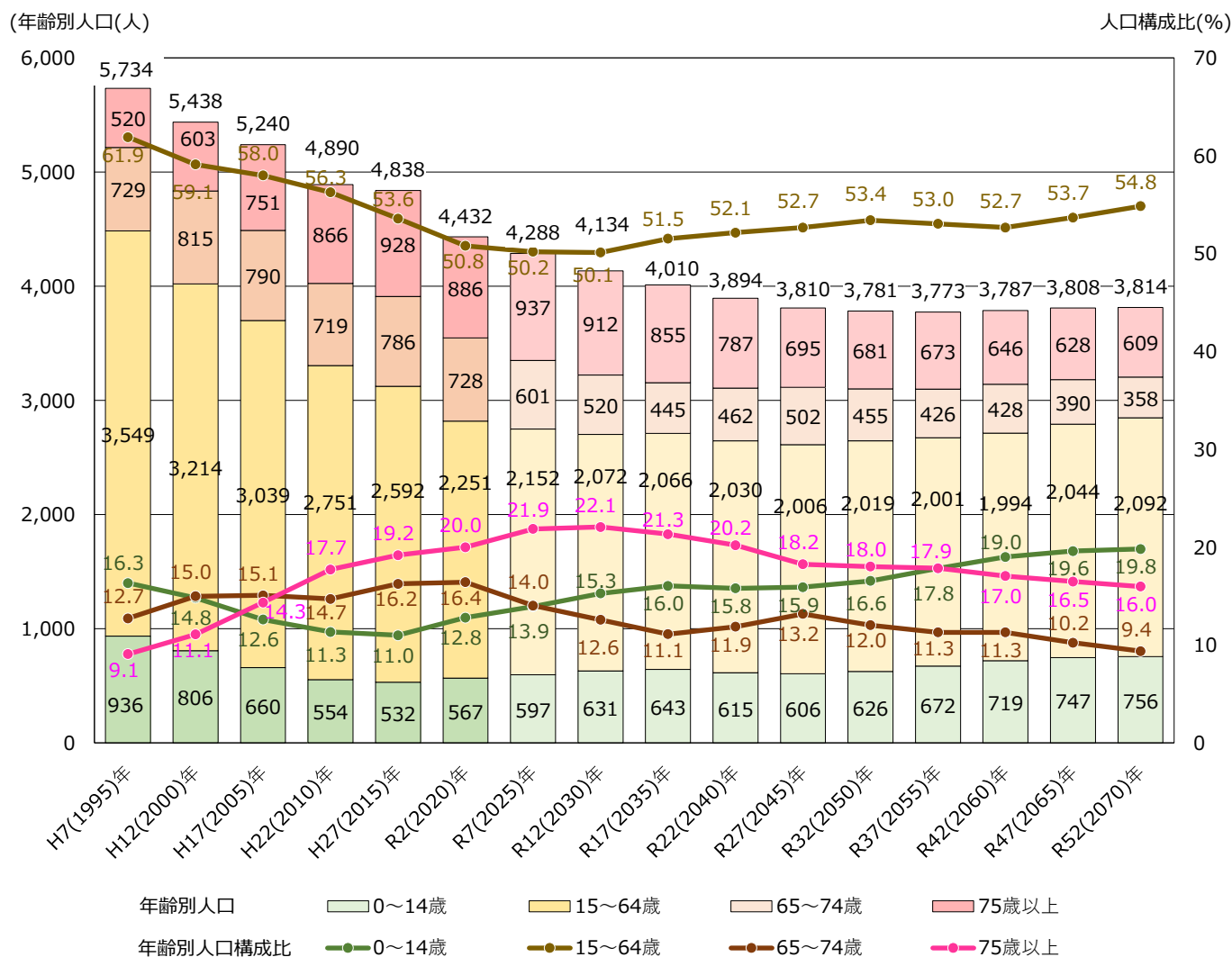
本計画の推進により、地域資源の活用、移住・定住促進、空き家活用、ローカルベンチャーやシェアオフィス等の環境整備を進めます。Uターン就業者や副業・二地域居住希望者の確保を促進し、令和27年(2045年)以降、人口約3,800人で安定的に推移することを目標とします。

図 厚真町の今後の人口推移見通し



これにより、合計特殊出生率の増加傾向の維持と、毎年5世帯の30代子育て世帯の転入により、令和12年(2030年)頃から生産年齢人口と年少人口が増加に転じます。人口は令和32~37年(2050~2055年)頃の約3,800人を底に微増し、以降は安定的に推移すると見込まれます。

図 厚真町の今後の人口構成の見通し





## 第2章 土地利用ビジョン

### 2-1 基本的な考え方

厚真町は、市街地が豊かな自然や農地に囲まれた特有の都市構造を持っています。この特性を活かし、町内全域を5つのゾーンに区分し、安全・安心で快適な都市構造の実現を目指します。

### 2-2 5つのゾーンによる土地利用

#### 2-2-1 賑わいあふれる市街地

都市機能の集積と防災拠点機能の向上を図り、町民や移住・定住者、二地域居住者にとって魅力的な市街地を形成します。サテライトオフィスやゼロカーボンビレッジなど新たな分譲地整備を推進し、職住近接の市街地を実現します。

- ・住宅地：中心商業地周辺や幹線道路沿道に一般住宅地、豊沢・新町・本郷・上厚真地区に低層専用住宅地を配置
- ・商業業務地：厚真市街地内に生活利便施設、主要幹線道路沿道に沿道サービス施設を誘導
- ・工業業務地：豊沢地区の企業誘致を推進
- ・未利用地：市街地への居住誘導を図り、郊外部の無秩序な開発を抑制。大規模未利用地は新たな分譲地整備により活用

#### 2-2-2 豊かな森林地域

都市計画区域北部の山間地・丘陵地域は、森林の再生と林業の復興を図ります。災害防止、環境保全、自然景観保全の場として位置づけ、厚幌ダム・厚真ダムを中心とした景観・観光の場、都市との交流の場として活用します。

#### 2-2-3 輝く田園地域

都市計画区域中部から南部の水田を中心とした農村地域は、水と緑に恵まれた農村環境を形成します。農業振興地域整備計画に基づき優良な農地を保全し、水稻を中心とした生産性向上を図ります。グリーン・ツーリズムなどにより、町民の自然とのふれあいの場や都市住民との交流の場を創出します。

#### 2-2-4 美しい臨海地域

浜厚真地区の海岸は、日高胆振沿岸海岸保全基本計画（北海道）による海岸の保全を図ります。

#### 2-2-5 魅力ある工業地域

苫小牧東部地域は、苫小牧東部開発新計画や港湾計画に基づき、工業用地、物流機能、研究開発機能を配置します。



### 第3章 総合計画策定のあゆみ

令和6年度（2024年度）

日	内容	対象	詳細
4月26日	第5次総合計画策定方針 ブレインストーミング	庁内職員	町の現状や課題、将来像の可視化・共有
8月6日～ 9日	あつま課題発掘会議（事前インタビュー） ～ 中高生が拓くまちづくり編～	町内の中学校・高校に通学する中高生、高校生	ワークショップの事前準備のために、中高生による保護者、高齢者へのインタビュー
8月16日	あつま課題発掘会議 ～ 中高生が拓くまちづくり編～	町内の中学校・高校に通学する中高生、高校生	事前インタビュー結果を基にした教育・福祉分野の課題整理ワークショップ
9月18日	あつま課題発掘会議 ～ まちづくりを担う人材編～	町内在住の一般町民など	まちの現状や課題について考えるワークショップ
9月19日	あつま課題発掘ワークショップ ～ 女性とキャリア編～	町内在住の女性	女性が起業やキャリアアップを目指すうえで感じる課題について話し合うワークショップ
9月20日	令和6年度第1回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画の策定方針について
9月26日～ 10月24日	担当原課ヒアリング	庁内職員	事務局が各施策担当者に現状や課題についてヒアリング
10月7日	新総合計画策定に関する調査特別委員会	新総合計画策定に関する調査特別委員会	第5次厚真町総合計画策定方針（案）について
10月23日	第1回厚真町総合計画策定委員会	厚真町総合計画策定委員会	厚真町総合計画策定委員会設置要綱、第5次厚真町総合計画策定方針について
11月7日	令和6年度第1回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	キックオフミーティング
11月20日～ 12月16日	厚真町総合計画及び都市計画マスタープランの見直しに向けた意向調査	15才以上の町内在住者から無作為に抽出した町民1,000人	地域幸福度（Well-Being）指標及び都市計画マスタープラン見直しに関するアンケート調査
12月24日～ 25日	令和6年度第2回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	課題構造マップ作成に向けた事前説明会
1月8日～ 1月23日	庁内課題構造整理	庁内職員	担当原課ごとで課題構造マップ作成に向けた19施策の課題整理
2月6日	令和6年度第3回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	厚北地域防災コミュニティセンターで19の施策分野の課題構造マップを作成するワークショップ

日	内容	対象	詳細
3月18日	令和6年度第2回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画策定の進捗よくについて

令和7年度（2025年度）

日	内容	対象	詳細
6月10日	令和7年度第1回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画基本構想（案）について
6月17日	新総合計画策定に関する調査特別委員会	新総合計画策定に関する調査特別委員会	第5次厚真町総合計画基本構想（案）について
7月2日	「活用される総合計画策定研究会」（第1回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
7月3日	令和7年度第1回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム	ロジックモデル作成のための事前説明
7月23日	「活用される総合計画策定研究会」（第2回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
7月28日～29日	令和7年度第2回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	ロジックモデル作成のワークショップ
8月18日	「活用される総合計画策定研究会」（第3回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会（長野県小諸市への先進地現地視察）
9月30日	「活用される総合計画策定研究会」（第4回）	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、事務局	日本生産性本部主催の研究会
1月7日	令和7年度第3回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	指標検討のための事前説明
1月22日	令和7年度第4回厚真町総合計画策定プロジェクトチーム会議	厚真町総合計画策定プロジェクトチーム、関係職員	指標選定のためのワークショップ
2月6日～3月10日	第5次厚真町総合計画(素案)及び厚真町第3期地方創生総合戦略(素案)の意見募集(パブリックコメント)	町内に住所を有する方など	意見3件
5月20日	令和8年度第1回まちづくり委員会	まちづくり委員会	第5次厚真町総合計画（案）の諮問・答申について
6月4日	新総合計画策定に関する調査特別委員会	新総合計画策定に関する調査特別委員会	第5次厚真町総合計画（案）について
6月23日	令和8年第2回厚真町議会定例会	—	議案第8号 第5次厚真町総合計画基本構想の策定

## 第4章 総合計画策定メンバー

### 厚真町総合計画策定委員会委員

区分	役職	氏名
委員長	副町長	西野 和博
副委員長	教育長	遠藤 秀明
委員	地方創生担当理事	大坪 秀幸
委員	総務課長	佐藤 大輔
委員	まちづくり推進課長	宮下 桂
委員	住民課長	藤岡 隆志
委員	産業経済課長	木戸 達也
委員	建設課長	佐藤 義彦（～R7年6月） 田中 紀嘉（R7年10月～）
委員	生涯学習課長	阿部 雄史

### 事務局

所属	役職	氏名
まちづくり推進課	課長	宮下 桂
まちづくり推進課企画調整G	主幹	江川 允典
まちづくり推進課企画調整G	主査	矢代 直樹
まちづくり推進課企画調整G	主査	北川 桂
まちづくり推進課企画調整G	主事	菊地 崇斗

厚真町総合計画策定プロジェクトチーム

区分	所属	役職	氏名
チームリーダー	総務課 情報防災 G	参事	小山 敏史
チームメンバー	庁舎周辺等整備推進室	主任	池川 勲
副チームリーダー (R6)	総務課 総務人事 G	主幹	丸山 泰弘 (R6)
チームメンバー		主査	永澤 宏基 (R7)
チームメンバー	総務課 財政 G	主査	大平 賢
チームメンバー	まちづくり推進課 政策推進 G	主査	小松 美香
副チームリーダー (R7)	住民課 福祉 G	主幹	高橋 卓嗣
チームメンバー	住民課 町民生活 G	主任	木澤 真生
チームメンバー	住民課 健康推進 G	主任	杉山 効平
チームメンバー	住民課 子育て支援 G	主査	今野 果倫
チームメンバー	産業経済課 経済 G	主査	澤井 順英
チームメンバー	産業経済課 農業 G	主査	岡橋 篤志
チームメンバー	産業経済課 林業・ 森林再生推進 G	主事	三上 勇
チームメンバー	建設課 土木 G	主査	長谷川 翔吾
チームメンバー	建設課 上下水道 G	主事	飯岡 高基 (R6)
		主査	中田 恭平 (R7)
チームメンバー	建設課 都市施設 G	主任	上田 直輝
チームメンバー	会計室	主査	近藤 奈々子
チームメンバー	生涯学習課 学校教育 G	主査	日野 弥生
チームメンバー	生涯学習課 社会教育 G	主任	斉藤 烈

厚真町総合計画策定伴走支援

区分	氏名
厚真町地域活性化起業人	桑原 憂貴 (アンドパブリック株式会社 代表取締役)

あつま課題発掘会議

～中高生が拓くまちづくり編～

区分	氏名
中学生	押見 芽泉
中学生	日西 楓
中学生	安瀬 歩未
中学生	丸山 さくら
中学生	岩間 咲映
中学生	真野 光
中学生	館山 太雪
中学生	渡邊 聖涼
中学生	矢部 太郎
中学生	北川 侑
高校生	加藤 迅
高校生	蛭名 さくら
高校生	河原 悠月
高校生	兼本 洸埜

※令和6年度時点

あつま課題発掘会議

～まちづくり人材編～

氏名
畑山 貴英
山中 卓也
澤口 研太郎
丹羽 智大
荒谷 真美
水丸 和樹
大矢 仁
近藤 一郎
関西 正成
金丸 佳代
北村 剛也
土居 琴恵
松岡 美由紀
金谷 泰央
山口 和秀
神垣 明菜
古城 香
池川 勲
大垣 貴弘

あつま課題発掘ワークショップ

～女性とキャリア編～

氏名
山下 翔子
深澤 章子
北川 瞳
板垣 茜子
齊藤 直美
矢代 友香
宮野 和美
金子 あぐみ
野地 妙子
鎌田 えりか
堀田 祐美子
檜村 美輝